

平成 22 年度

知床世界自然遺産地域
海域資源情報基盤整備業務

報 告 書

平成 23 年 3 月

環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所
環境コンサルタント株式会社

平成 23 年 3 月 29 日

環境省北海道地方環境事務所
釧路自然環境事務所長様



代表取締役 濱口 憲二

TEL 0154-40-2331

平成 22 年度 知床世界自然遺産地域海域資源情報基盤整備業務

今回御依頼を賜りました標題の業務につきまして、別紙の通り報告書を提出いたしますので、宜しく御査収賜りますようお願い申し上げます。

なお、この度の業務の担当は下記の通りで御座いますので、御質問、お問い合わせは随時ご連絡くだされば直ちにお伺い致しますので宜しくお願い申し上げます。

記

業務担当者 環境技術部 田村 由紀

以上

検 査	承 認

目 次

1 業務概要		
1-1 業務名	1
1-2 目的	1
1-3 期間	1
1-4 業務内容	1
1-5 委託者	1
1-6 受託者		1
2 業務方針		
2-1 調査方法	2
2-2 とりまとめ方法	5
3 調査結果		
3-1 既存文献の収集とヒアリング 調査	6
(1) 野生動物専門家ヒアリング	6
(2) 観光船事業者ヒアリング	7
(3) 既存文献の収集	10
3-2 羅臼冬期観光船乗船による利 用資源の利用状況調査	11
(1) 調査船舶の概要	11
(2) 調査実績	12
(3) 調査結果	13
3-3 羅臼冬期観光船利用者への利 用動向アンケート調査	17
(1) 調査実績	17
(2) アンケート調査結果	19

3-4 考察	・・・・・・・・・・	51
（1）海域野生動物の観光利用状況	・・・・・・・・・・	51
（2）利用者の意識	・・・・・・・・・・	51
（3）観光利用における懸念事項	・・・・・・・・・・	52
（4）海域野生動物のデータの蓄積	・・・・・・・・・・	53
（5）今後必要な情報	・・・・・・・・・・	53

資料編

- 1) 野生動物専門家ヒアリング調査票
- 2) 観光船事業者提供・動物・乗客データ
- 3) 収集文献リスト
- 4) 羅臼町観光入込数と乗船客数
- 5) 斜里町観光入込数と乗船客数
- 6) 観光船利用状況調査票
- 7) アンケート調査票

写真帳

別添 CD-R

- 収集文献 pdf データ
- アンケート回答データ

別冊 アンケート用紙(回答済)

1 業務概要

1-1 業務名

平成 22 年度 知床世界自然遺産地域海域資源情報基盤整備業務

1-2 目的

知床世界遺産地域の周辺海域については、観光船やシーカヤックによる利用が行われており、これらの利用によって、多くの海棲ほ乳類や海鳥類などの知床ならではの野生動物が確認されている。また、海岸線では、ヒグマも出没し、観光船にとっては重要な利用資源となっている。

今年度よりスタートした適正利用・エコツーリズム検討会議の第 2 回会議において、海域についても同会議での検討対象として位置づけられることとなったが、陸域に比して、海域における利用資源である野生動物等の利用のされ方、及び利用者の意識等については十分に把握・整理されていない。

このため、本業務では、今後の検討を進めていく上で必要となる知床世界遺産周辺海域における、主に野生動物等を対象とした観光利用についての情報を、収集、整理、分析することを目的とする。

1-3 期間

平成 23 年 2 月 7 日～平成 23 年 3 月 29 日

1-4 業務内容

- (1) 既存文献の収集とヒアリング調査
- (2) 羅臼冬期観光船乗船による利用資源の利用状況調査
- (3) 羅臼冬期観光船利用者への利用動向アンケート調査

1-5 委託者

環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所

担当：羅臼自然保護官事務所

自然保護官 中川春菜

1-6 受託者

環境コンサルタント株式会社

北海道釧路郡釧路町中央 6-15-2 電話 0154-40-2331

担当：環境技術部

田村由紀、秋元明美

2 業務方針

2-1 調査方法

(1) 既存文献の収集とヒアリング調査

1) 野生動物専門家

知床世界自然遺産地域周辺海域における海域の野生動物に関する調査研究を行っている専門家（表 2-1）からヒアリングを行い、同時に既存文献に関する情報を収集し、文献の整理を行った。

調査対象：観光船に利用資源として利用されている野生動物

項目：知床における出現時期等の生態情報

既存文献：知床世界自然遺産地域周辺海域における海域の野生動物に関する報告書、論文、出版物等

表 2-1 ヒアリング対象専門家

氏名	所属等
中川 元（斜里町）	知床博物館（館長）
小林 万里（網走市）	東京農業大学（准教授）
佐藤 晴子（東京都）	シーライフウォッチ、知床・根室海峡シャチ連絡会
山村 織生（釧路市）	（独）水産総合研究センター北海道区水産研究所
福田 佳弘（斜里町）	知床海鳥研究会
石名坂 豪（羅臼町）	（財）知床財団

2) 観光船事業者

地元観光船事業者（表 2-2）から、日々の業務において船上から確認された野生動物、観光船利用者の属性についてヒアリングを行い、情報の整理を行った。

調査対象 1：観光船から確認された野生動物（ヒグマ含む）

項目：観察記録の有無、出現時期、目撃率、出航数

調査対象 2：観光船利用者

項目：居住地（道内/道外/海外の別）、ツアー客/個人客の別

表 2-2 ヒアリング対象観光船事業者

氏 名	所 属 等
長谷川正人（羅臼町）	知床羅臼小型観光船協議会(会長)、(有)知床ネイチャークルーズ
小林 廣幸（羅臼町）	知床小型観光船協議会(会長)、(有)丸は宝来水産ゴジラ岩観光
関口 均（斜里町）	知床アウトドアガイドセンター
尾田 保（羅臼町）	知床クルーズはまなす

(2) 羅臼冬期観光船乗船による利用資源の利用状況調査

冬期の運航を行っている羅臼町の観光船に乗船し、就航状況や野生動物観察時の観光船の対応と利用者の反応について記録を行った。調査は、複数の観光船（表 2-3）を対象とすることに努めた。

調査にあたっては、株式会社北海道二十一世紀総合研究所、調査研究部客員研究員、桑原幸範氏の助言を得た。また、乗船にあたり、(有)知床ネイチャークルーズ、(有)丸は宝来水産ゴジラ岩観光、(株)まるみに多大な協力を得た。

【調査記録項目】

- 就航状況 : 天候、結氷状況等
 観光船の対応 : 野生動物との距離、行動(停止・接近・回避)、
 船内アウンス等
 利用者の反応 : 行動、言動等

表 2-3 羅臼町冬期観光船

船名	事業者名
エバーグリーン	(有)知床ネイチャークルーズ
カムイワッカ-55号	(有)丸は宝来水産ゴジラ岩観光
アルランⅢ世	(株)まるみ
朝枝Ⅱ	清水端 昇
はまなす	尾田建設(株)

(3) 羅臼冬期観光船利用者への利用動向アンケート調査

冬期間の観光船利用者の動向を把握する為にアンケート調査を実施した。調査対象は、(2)利用状況調査の利用者及びその他の観光船利用者全てとし、調査期間中出来るだけ多くの回収に努めた。

調査にあたっては、(有)知床ネイチャークルーズ、(有)丸は宝来水産ゴジラ岩観光、(株)まるみに多大な協力を得た。

調査対象	: (2)利用状況調査の利用者及びその他の観光船利用者
項目	: 利用者属性、滞在期間、乗船目的、満足度等
調査用紙	: アンケート調査票を資料編に添付

2-2 とりまとめ方法

各調査結果を以下の資料に整理し、とりまとめを行った。

(1) 既存文献の収集とヒアリング調査

○調査実績表

=資料編=

○収集文献リスト

○文献データ (pdf)

○野生動物専門家ヒアリング調査票

○観光船事業者提供・野生動物確認データ

○観光船事業者提供・利用者数、航海数

○斜里町観光入込数

○羅臼町観光入込数

○観光船利用者数と羅臼町/斜里町の観光入込数の変化 (年間)

○月別観光船利用者数と月別観光入込数の変化の比較

(2) 羅臼冬期観光船乗船による利用資源の利用状況調査

○調査実績表

○乗船による利用資源の利用状況調査概況

=資料編=

○観光船利用状況調査票

(3) 羅臼冬期観光船利用者への利用動向アンケート調査

○調査実績表

○アンケート結果

=資料編=

○アンケート調査票

○アンケート回答データ

○アンケート回答用紙 (別冊)

3 調査結果

3-1 既存文献の収集とヒアリング調査

(1) 野生動物専門家ヒアリング

1) 調査実績

表 3-1-1 に記した日程で野生動物の専門家から、知床世界自然遺産地域海域に生息する野生動物のうち、観光船に利用されている野生動物に関する知床における出現時期等に関するヒアリングを行った。

表 3-1-1 野生動物専門家ヒアリング調査実績

専門家氏名	専門分野	調査日	調査場所
中川 元	海鳥、ワシ類、その他	平成 23 年 3 月 18 日	斜里町
小林 万里	アザラシ類、トド	平成 23 年 3 月 7 日	釧路町
佐藤 晴子	鯨類(イルカ・クジラ)、海鳥、その他	平成 23 年 3 月 6 日	東京都
山村 織生	トド	平成 23 年 3 月 15 日	釧路町
福田 佳弘	海鳥	平成 23 年 3 月 17 日	中標津町
石名坂 豪	アザラシ類、トド	平成 23 年 2 月 18 日	羅臼町

2) ヒアリング結果

各専門家のヒアリング結果を野生動物専門家ヒアリング調査票(資料編)に記載した。

ヒアリングでは、現在観光船に利用されている野生動物のほかに今後利用が想定される鳥類等に関する情報も提供された。

また、情報の多くは、近年の出現時期や生態に関するものであった。個体数変化、あるいは目撃数の変化に関わる経年的な変遷が読み取れる情報は、ワシ類のみであった。

(2) 観光船事業者ヒアリング

1) 調査実績

表 3-1-2 に記した日程で、観光船事業者から日々の業務において船上から確認された野生動物、観光船利用者の属性についてヒアリングを行った。

表 3-1-2 観光船事業者ヒアリング調査実績

事業者名	担当者名	調査日	調査場所
(有)知床ネイチャークルーズ	長谷川 正人 大木 絵里香	平成 23 年 2 月 24 日	羅臼町
(有)丸は宝来水産ゴジラ岩観光	小林 廣幸 神尾 昇勝	平成 23 年 3 月 1 日	羅臼町
知床アウトドアガイドセンター	関口 均	平成 23 年 3 月 17 日	斜里町
尾田建設(株)：知床クルーズはまなす	尾田 保 清藤 彩加	平成 23 年 3 月 1 日	羅臼町

2) ヒアリング結果

調査の結果、4 社のうち 2 社から観察記録の提供を得た。観光船利用者の情報については、3 社から情報を得た。観察記録及び乗船者記録の有無を表 3-1-3、表 3-1-4 に整理した。乗船者の属性に関してはヒアリング内容を整理し表 3-1-5 にとりまとめた。

(有)知床ネイチャークルーズは、海鳥のうち、オオワシ、オジロワシ、ミズナギドリ類について、海生哺乳類のうち、トド、アザラシ類、クジラ類、イルカ類について 2006 年から羅臼側での観察記録がある。(有)丸は宝来水産ゴジラ岩観光では、ウトロ側を中心にヒグマに関する観察記録がある。2 社の提供データを資料編に整理した。また、乗船客数の記録についても資料編に整理し、羅臼町、斜里町の観光入込数と比較した。

表 3-1-3 観光船事業者による野生動物観察記録の有無

事業者名	観察記録	出現種	出現時期	出航数	目撃率	観察記録の内容
(有)知床ネイチャークルーズ	海生哺乳類 ワシ類ほか	○	○	○	○	2006 年 7 月～ 2011 年 2 月
(有)丸は宝来水産ゴジラ岩観光	ヒグマ	○	○	○	○	2004 年～ 2009 年 11 月
知床アウトドアガイドセンター	-	-	-	-	-	-
尾田建設(株)：知床クルーズはまなす	-	-	-	-	-	-

表 3-1-4 観光船事業者による乗船客数データの有無

業 者 名	乗船客数データ	内 容
知床ネイチャークルーズ	○	2007年1月～2011年2月
（有）丸は宝来水産ゴジラ岩観光	○	2004年～2009年
知床アウトドアガイドセンター	-	-
尾田建設(株)：知床クルーズはまなす	○	2010年4月～2011年3月

表 3-1-5 乗船客の属性（ヒアリング内容から作成）

業 者 名	コ ー ス 名	居住地の区分			旅行形態の区分	
		道内	道外	海外	個人	ツアー
知床ネイチャークルーズ	流氷・バードウォッチングコース	40%	60%	*	40%	60%
	くじら・いるか・バードウォッチングコース	40%	60%	*	60%	40%
（有）丸は宝来水産 ゴジラ岩観光	写真撮影コース	30%	50%	20%	40%	60%
	バードウォッチングコース	30%	50%	20%	30%	70%
	観光コース	30%	50%	20%	-	100%
知床アウトドア ガイドセンター	シーカヤック	5%	90%	5%	-	-
尾田建設(株)： 知床クルーズはまなす	ホエールウォッチングコース	-	-	-	-	-
	流氷ウォッチングコース	-	-	-	-	-

*：数%



イシイルカ（羅臼、（有）知床ネイチャークルーズ撮影、2010/5/11）



シャチ（羅臼、(有)知床ネイチャークルーズ 撮影、2010/7/4）



マッコウクジラと羅臼の街並み
（羅臼、(有)知床ネイチャークルーズ 撮影、2010/7/4）

(3) 既存文献の収集

ヒアリング調査で提供された資料及び情報に加え、受託者が収集した文献資料を合わせて収集文献は計 151 件であった。

記事名、著者名、発行日等を収集文献リスト（資料編）に整理し、このうち収集した文献資料は、pdf ファイル形式で整理し、別添 CD-R に収録した。

3-2 羅臼冬期観光船乗船による利用資源の利用状況調査

(1) 調査船舶の概要

羅臼町では冬期に、5社の観光船が運航している（p3表2-3）。調査期間中に、観光船各社に問合せを行ったところ、出航予定のあった3隻（表3-2-1）に乗船して調査を実施した。朝枝Ⅱ、はまなすの2隻は出航予定がなかった。

表 3-2-1 調査船舶の概要

船名	エバーグリーン	所属	(有)知床ネイチャークルーズ
			船質 耐蝕性アルミ合金製 総トン数 19トン 定員 50名 最大速力 22ノット 航海速力 約17ノット 全長 18.70m 幅 4.40m 深さ 1.69m 料金&コース A 流氷&バートウォッチング 60分 ¥4000 B 流氷&バートウォッチング 150分 (写真撮影) ¥8000～
船名	カムイワッカ-55号	所属	(有)丸は宝来水産ゴジラ岩観光
			船質 軽合金 総トン数 14トン 定員 夏期 55名 冬期 30名 航海速力 20ノット 全長 13.13m 幅 4.19m 深さ 1.24m 料金&コース 写真撮影コース 180分 ¥10000 バートウォッチングコース 180分 ¥7000 観光コース 60分 ¥4000



船質	FRP
総トン数	17 トン
定員	70 人 (旅客 67 人・船員 3 人)
最大速度	330.98kw 450.0ps
航海速度	70%(最大速度)
全長	14m 以上 20m 未満
幅	4.20m
深さ	1.70m
料金&コース	流氷・ハートウォッ チング、クルージング 150分¥9000

(2) 調査実績

調査は、3月1日から3月7日までの期間に10回実施した(表3-2-2)。そのうち、エバーグリーンに7回、カムイワッカ-55号に2回、アルランⅢ世に1回乗船し調査を行った。エバーグリーンとカムイワッカ-55号はほぼ毎日出航しており、船の予定コースから調査対象船を選定した。アルランⅢ世は調査期間中の出航予定は1回のみであった。コース別の調査回数は、写真撮影を主な目的とする120分以上のコースで6回、観光ツアーを主な目的とする60分コースで4回の調査を実施した。

表 3-2-2 乗船による利用状況調査実績表

調査回数	調査日	船名	コース	調査時間 (乗船時間)	利用者 (人)	流氷
1	3月1日	エバーグリーン	撮影込み 120分以上	5:00~8:25	18	港内・沿岸・ 沖合
2	3月2日	エバーグリーン	撮影込み 120分以上	7:30~11:00	15	港内・沿岸・ 沖合
3	3月2日	エバーグリーン	撮影込み 120分以上	13:30~16:10	16	港内・沿岸・ 沖合
4	3月3日	アルランⅢ世	撮影込み 120分以上	8:43~11:05	4	沿岸・沖合
5	3月3日	カムイワッカ-55	観光60分	12:59~14:00	19	沖合
6	3月5日	エバーグリーン	撮影込み 120分以上	5:00~8:25	17	沖合
7	3月5日	エバーグリーン	撮影込み 120分以上	9:00~11:42	12	沖合
8	3月5日	カムイワッカ-55	観光60分	13:30~14:49	15	沖合
9	3月6日	エバーグリーン	観光60分	9:56~11:02	39	沖合
10	3月7日	エバーグリーン	観光60分	12:37~13:40	28	沖合

(3) 調査結果

調査記録を、観光船利用資源の利用状況調査票（資料編）に記載し、内容を、表 3-2-3 にコース別に整理した。

調査期間中、観光船から毎回確認できた野生動物は、オオワシ、オジロワシ、カモメ類、カラス類であった。ワシ類と観光船との最短距離は、50m が 3 回、30m が 4 回、25m が 1 回、20m が 1 回、調査中の最短距離 10m が 1 回であった。他に利用客全般が興味を持った野生動物はゴマフアザラシで、10 回の調査中 3 回の目撃があった。ゴマフアザラシと観光船との最短距離は、100m、30m、10m で、いずれの機会もゴマフアザラシは驚いたり逃げたりすることはなかった。観光船は、ワシ類やゴマフアザラシに近づく場合にはゆっくりと航行し、野生動物があわてて逃げるような行動は認められなかった。

利用者の乗船目的は、主に 1)野生動物の写真撮影、2)流氷や風景及び野生動物の観察、の 2 通りに区分され、観光船のコースの区分と対応していた。

次に、観光船の対応と利用者の反応をコース別に整理した。



平成 23 年 3 月 3 日

観光船で目撃したワシ類



平成 23 年 3 月 3 日

観光船で目撃したゴマフアザラシ

1) 写真撮影を含む 120 分以上のコース

表 3-2-3(1)に当該コースの利用状況調査概況を整理した。調査内容の詳細は、観光船利用資源の利用状況調査票（資料編）に記載した。

当該コースの利用者は、大部分が一眼レフカメラを持参したアマチュアカメラマン及びプロカメラマンであった。主に、オオワシ、オジロワシを黙々と撮影し、目の前のワシ類に対して、歓声や大声を出す利用者はいなかった。利用者の中には、外国人もおり、アメリカからの撮影ツアー客や、香港からの撮影旅行の利用者が乗船していた。香港から来た外国人利用者は、ワシ類のほか、カモメ類を熱心に撮影していた。また、写真撮影ではなく、バードウォッチングを目的とする利用者も若干名おり、中にはフランス人もいた。

船側の対応として、当該コースの特徴の一つに、鳥類への給餌があげられる。当該コースでは、運航を確認した 4 社全ての観光船（カムイワッカ-55 号、アルランⅢ世、はまなす、エバーグリーン）で給餌を行っていた。給餌により、利用者の目当てであるオオワシ、オジロワシを流氷上に集めることができる。



平成 23 年 3 月 2 日

給餌風景と利用者



平成 23 年 3 月 2 日

ワシ類を撮影する利用者

給餌にはスケトウダラ、カレイ、カジカ等を使用していた。1 回の運航で、3～6 回の給餌を行った。エバーグリーンは、氷上が魚の血で赤く染まり自然な景観を損なうことを避ける為に、給餌には内蔵を取り除いた魚を用いていた。他 3 社は魚を丸ごと使用してい

た。給餌は、流水上に魚を置いた後、船を遠ざけワシ類が集まるまで待つ。集まった頃、ゆっくりとワシ類に近づき、しばらく停船する。停船中に風や波で船が流された場合、位置を調整しながら、利用者の為に良い写真撮影が出来るような角度と位置を保つ。

給餌について、カメラマンの中では特に意見を言う人はいなかったが、バードウォッチングを目的にした利用者の中には、あまり好ましくないといった否定的な意見を述べる人がいた。

当該コースでは、野生動物の解説や景勝地の解説、航行中の注意事項等のアナウンスがほとんどなかった。

表 3-2-3(1) 【写真撮影を含む 120 分以上のコース】 利用状況調査概況

日時	船名 ※	給餌 回数	目撃種	接近 距離	船の行動・対応	利用者の行動・反応
3/1 5:00 ～ 8:25	E	4	オオワシ オジロワシ カモメ類	30m	給餌 ワシ類にはゆっくり近づく 船内アナウンスはほとんどない	黙々と写真撮影
			ゴマアザラシ (流水上)	30m	30m 程度の間隔を保ちアザラシの氷 の周りをゆっくり一周	歓声をあげるが騒ぎわ しない。写真を撮る。
3/2 7:30 ～ 11:00	E	4	オオワシ オジロワシ カモメ類	30m	給餌 ワシ類にはゆっくり近づく 船内アナウンスはほとんどない	黙々と写真撮影
3/2 13:30 ～ 16:10	E	3	オオワシ オジロワシ カモメ類	30m	給餌 ワシ類にはゆっくり近づく 船内アナウンスはほとんどない	黙々と写真撮影
3/3 8:43 ～ 11:05	A	4	オオワシ オジロワシ カモメ類	30m	給餌 ワシ類にはゆっくり近づく 船内アナウンスはほとんどない	黙々と写真撮影
			クリオネ	1m	停船中発見. 利用者に説明.	海中をじっと見て喜 ぶ。写真撮影。
3/5 5:00 ～ 8:25	E	6	オオワシ オジロワシ カモメ類	20m	給餌 ワシ類にはゆっくり近づく 船内アナウンスはほとんどない	黙々と写真撮影
3/5 9:00 ～ 11:42	E	3	オオワシ オジロワシ カモメ類	25m	給餌 ワシ類にはゆっくり近づく 船内アナウンスはほとんどない	黙々と写真撮影

※船名・・・E: エバーグリーン、K: カムイワッカ-55 号、A: アルラン III 世

2) 観光 60 分コース

表 3-2-3(2)に当該コースの利用状況調査概況を整理した。調査内容の詳細は、観光船利用資源の利用状況調査票（資料編）に記載した。

当該コースの利用者は、貸切バスで来町した団体ツアー客が大部分であった。観光船は船内アナウンスで、航行中の注意事項や流氷、景勝地、野生動物についての解説を行った。利用者は、解説中の景勝地の方向を見るなど、アナウンス中は静かに説明を聞いていた。

利用者は流氷や景観、野生動物の発見に喜び熱心に観察したり、撮影を行うが、乗船中のマナーは大変良好であった。観光船がアナウンスで、野生動物を発見した旨を告げたり、ゆっくり近づいて行く場合でも、大声をあげたり、船内を走るなどする利用者はいなかった。

表 3-2-3(2) 【観光 60 分コース】 利用状況調査概況

日時	船名※	給餌回数	目撃種	接近距離	船の行動・対応	利用者の行動・反応
3/3 12:59～ 14:00	K	0	オオワシ オジロワシ カモメ類	50m	ゆっくり近づき停船。ワシの解説。ゆっくり離れる。	静かに見る。写真撮影。
			ゴマアサガラシ (流氷上)	10m	静かに接近し停船。ゆっくり離れる。	喜ぶが騒いだりはしない。写真撮影。
3/5 13:30～ 14:49	K	0	オオワシ オジロワシ カモメ類	50m	静かに接近し停船。ゆっくり離れる。	感動の声をあげるが騒がない。静かに見る。写真を撮る。
3/6 9:56～ 11:02	E	0	オオワシ オジロワシ カモメ類	10m	静かに接近し停船。ゆっくり離れる。	静かに見る。写真撮影。
3/7 12:37～ 13:39	E	0	オオワシ オジロワシ カモメ類	50m	発見後アナウンスで客に周知。静かに接近し停船。ゆっくり離れる。	写真撮影。双眼鏡で見る。
			ゴマアサガラシ (海面)	100m	発見後アナウンスで客に周知。静かに接近し停船。角度を微調整し停船。ゆっくり離れる。	感動の声をあげる。大声は出さず静かに見る。写真撮影。

※船名…E：エパーグリーン、K：カムイワッカ-55号、A：アルランⅢ世

3-3 羅臼冬期観光船利用者への利用動向アンケート調査

(1) 調査実績

調査は、観光船乗船による利用資源の利用状況調査の利用者と他の機会に乗船した利用者を対象に実施した（表 3-3-1）。

記入・回収方法として、2通りを準備し、できるだけ多くの回答を得るように努めた。一つは乗船中及び乗船後に記入してもらいすぐに回収する方法、二つ目は乗船後に返信用封筒（切手不要・受取人払）とアンケート用紙を同時配布し、記入後に後日郵便ポストへ投函してもらう方法である。アンケート用紙と返信用封筒を資料編に掲載した。

配布数と回答数を表 3-3-1 に整理した。封筒同時配布数 93 件のうち 33 件の回答があり、現地配布回答数 121 件を合わせると、全配布数が 214 件、このうち回答数 154 件を得た。回答率は 72%であった。

表 3-3-1 アンケート調査実績表

	配布日	回答者 利用観光船	出航時刻	配布数 (封筒)	回答数 (封筒)	配布数 回答数 (現地)	回答数計
1	3月1日	エバーグリーン	5:00	0	0	18	18
2	3月1日	カムイワッカ-55	5:00	19	5	4	9
3	3月2日	エバーグリーン	7:30	0	0	15	15
4	3月2日	カムイワッカ-55	7:30	7	1	3	4
5	3月2日	エバーグリーン	13:30	1	0	5	5
6	3月3日	アルランⅢ世	8:43	0	0	4	4
7	3月3日	カムイワッカ-55	12:59	0	0	8	8
8	3月5日	カムイワッカ-55	5:00	0	0	4	4
9	3月5日	エバーグリーン	5:00	0	0	10	10
10	3月5日	エバーグリーン	9:00	1	0	8	8
11	3月5日	エバーグリーン	13:00	0	0	8	8
12	3月5日	カムイワッカ-55	13:30	0	0	10	10
13	3月6日	エバーグリーン	5:00	12	3	1	4
14	3月6日	エバーグリーン	9:56	15	7	0	7
15	3月7日	エバーグリーン	9:00	10	4	2	6
16	3月7日	エバーグリーン	12:37	8	1	21	22
17	3月8日	エバーグリーン	9:00	20	12	0	12
計				93	33	121	154



趣旨文書・アンケート用紙(両面印刷)・返信用封筒



平成 23 年 3 月 2 日

アンケートに記入する利用者 1



平成 23 年 3 月 3 日

アンケートに記入する利用者 2

(2) アンケート調査結果

1) 基本集計

1)-1 アンケート回答者の属性

- アンケート回答者は道外 60%、道内 33%、地元 6%、外国 1%となっている。
- 性別はほぼ男女半々で、年齢は 40 歳以上が全体 3/4 を占める。
- 旅行の形態は団体・個人がほぼ半々で、旅行日程は 2 泊 3 日が最も多く次いで 1 泊 2 日、3 泊 4 日の順となっている。観光船への乗船予定回数は 1 回もしくは 2 回となっている。
- 知床での観光船への乗船経験は、今回初めてが 43%で最も多く、次いで羅臼で経験ありが 31%、ウトロで経験ありが 14%となっている。
- 観光船への乗船動機は「特定の動物・鳥等を見たい、写真に撮りたい」、「知床の野生生物全般を見たい、写真に撮りたい」「知床の自然を楽しみたい」が多い。
- 自然保護への関心度は、「非常に興味がある」が 60%、「ある程度興味がある」が 30%を占め、関心度は非常に高い。

① 居住地 (SA)

アンケート回答者の居住地別割合は道外が 92 件で最も多く、全体の 60%を占めている。次いで道内が 50 件、33%となっている。

外国人は 1 件のみであった。

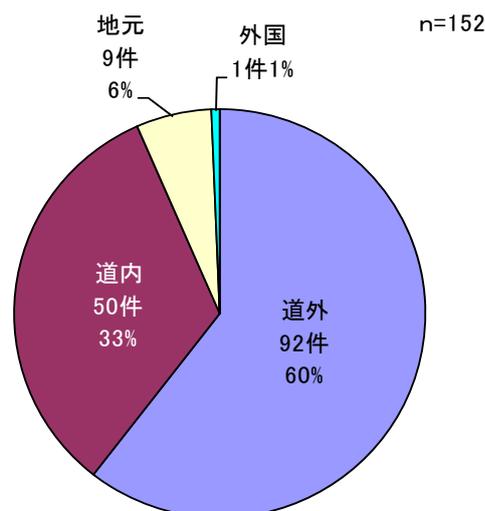


図 3-3-2-1)-1 回答者の居住地区分

② 性別(SA)

アンケート回答者の性別は男性 56%、女性 44%とやや男性が多いが、ほぼ二分していると言ってよく、回答は男女のいずれにも偏ってはいない。

n=152

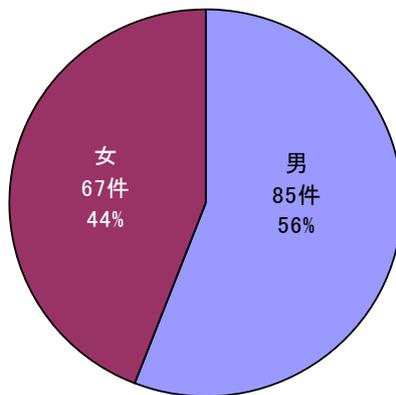


図 3-3-2-1)-2 回答者の性別

③ 年齢構成 (SA)

回答者の年齢構成は 60 歳以上が全体の 40%強を占め、次いで 40~50 代が 30%と 40 歳以上で全体 3/4 を占める。

20~30 代は全体の 20%を占め、10 代は全体の 4%と少ない。

n=150

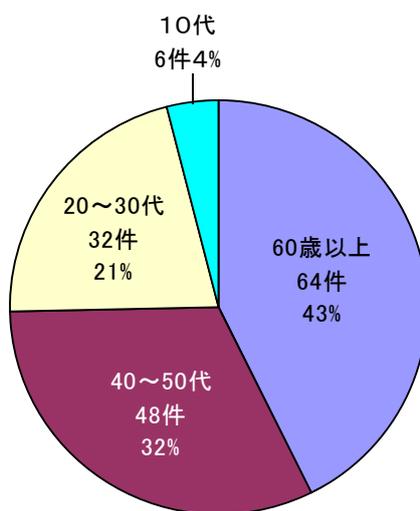


図 3-3-2-1)-3 回答者の年齢構成

④ 旅行形態 (SA)

旅行形態は団体旅行と個人旅行がそれぞれ47%と同じ割合となっている。
旅行ではなく地元からの乗船も6%いる。

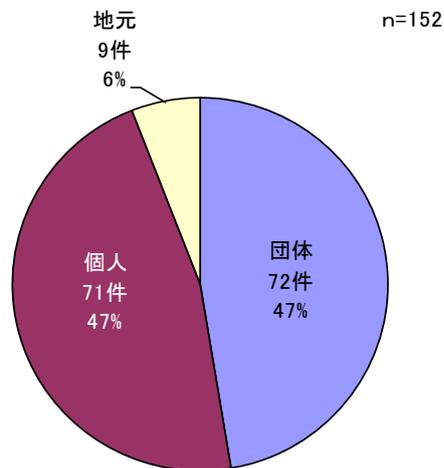


図 3-3-2-1)-4 旅行の形態

⑤ 知床への旅行日程

知床への旅行日程は2泊3日が60件と最も多く、次いで1泊2日、3泊4日と続く。1ヶ月以上の長期滞在も若干ではあるが見受けられる。

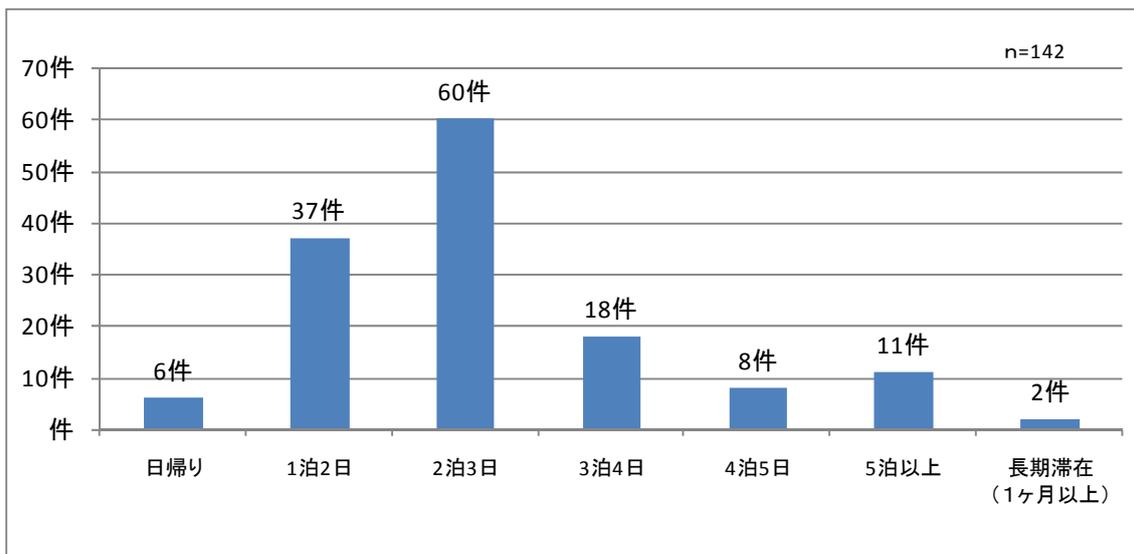


図 3-3-2-1)-5 知床の旅行日数

⑥ 観光船への乗船予定回数

観光船への乗船予定回数は1回が全体の48%、2回が39%でこの2区分で全体の9割を占める。

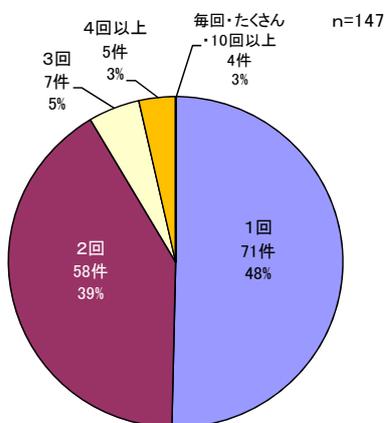


図 3-3-2-1)-6 観光船への乗船予定回数

⑦ 知床での観光船への乗船経験

知床での観光船への乗船経験は、今回初めてが43%で最も多く、次いで羅臼で経験ありが31%、ウトロでの経験ありが14%となっている。

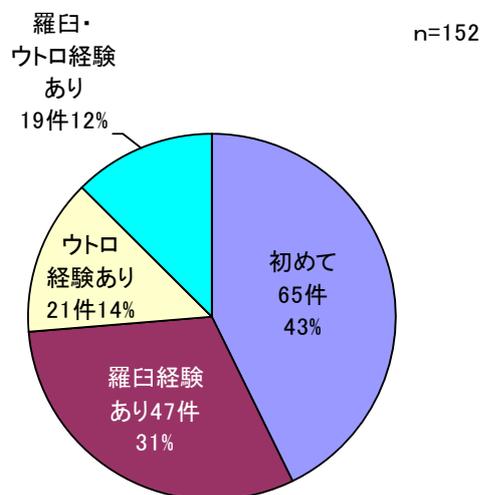


図 3-3-2-1)-7 知床での観光船への乗船経験

⑧ 観光船への乗船動機

観光船への乗船動機は、「特定の動物・鳥等を見たい、写真に撮りたい」と「知床の野生生物全般を見たい、写真に撮りたい」がともに30%程度で割合が高く、次いで「知床の自然を楽しみたい」が19%を占める。

乗船動機はこの3つで大部分を占め、「ツアーに組み込まれている」、「面白そう」の割合は低い。

n=152

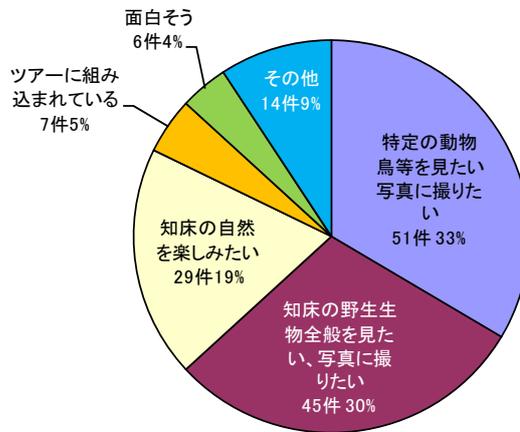


図 3-3-2-1)-8 観光船への乗船動機

⑨ 自然保護への関心度

乗船客の自然保護に対する関心度は、「非常に興味がある」が57%、「ある程度興味がある」が28%を占めており、自然保護に対する関心度は非常に高い。

n=152

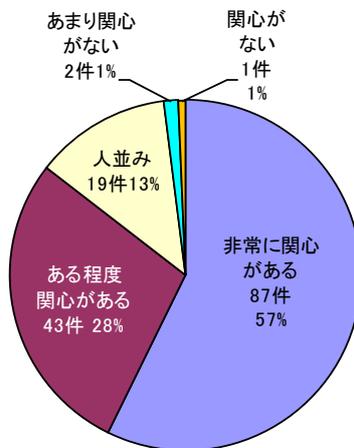


図 3-3-2-1)-9 自然保護への関心度

1)-2 観光船の運航状況と目撃種

1)-2-1 観光船の運航状況

○乗船した観光船はエバーグリーンが全体の 3/4、カムイワッカが 1/4 で、アルランⅢ世はごく一部ある。

○1回の運航時間は 3～3.5 時間（48%）、もしくは 1～1.5 時間（41%）が多い。

① 乗船観光船

乗船した観光船はエバーグリーンが全体の 3/4、カムイワッカが 1/4 となっておりアルランⅢ世への乗船はごく一部であった。この割合は、アンケート調査期間中の各観光船の運航予定数の割合にほぼ一致する。

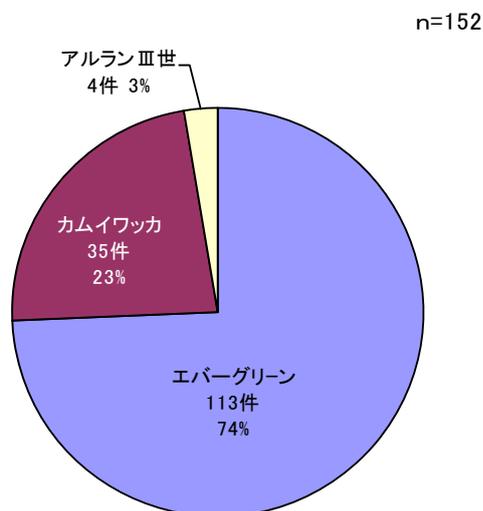


図 3-3-2-1)-10 乗船した観光船

② 1回の運航時間

1回の運航時間は 3～3.5 時間が 48%、1～1.5 時間が 41%で大半を占め、次いで 2.5～3 時間が 11%となっている。

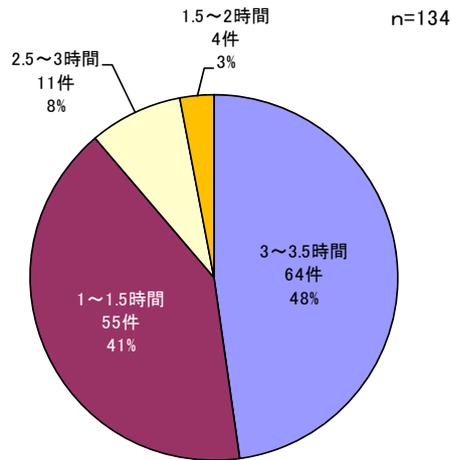


図 3-3-2-1)-11 1回の運航時間

1)-2-2 目撃種

○観光客の目撃種はオオワシ、オジロワシ、ゴマフアザラシが圧倒的に多く、次いでカモ類、カモメ類などが続いている。

① 全体目撃種

観光客が目撃した目撃種は全体でオオワシを 150 人が目撃、次いでオジロワシが 133 人、ゴマフアザラシが 56 人と、この 3 種が多く、次いでカモ類、カモメ類が続いている。

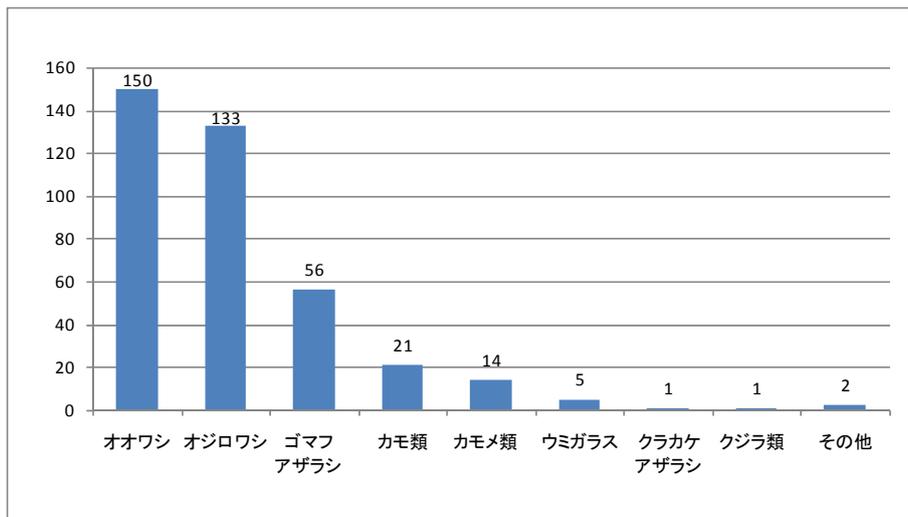


図 3-3-2-1)-12 観光客の目撃種 (全体)

2)種を目撃したことへの感想

① 全体

乗船中に目撃した種すべてについて、その種を目撃した時の感想をみるとオオワシ、オジロワシ、カモ類については「見られただけで満足」が70～80%程度となっており、次いで「もっと近くで見たかった」が10%程度で続いている。

ゴマフアザラシについては「見られただけで満足」とする一方、「もっと近くで見たかった」とする感想が多い。

他の種は目撃数が少ないため、あくまで目撃した観光客の個人的な感想にとどまるが、「見られただけで満足」、「もっと近くで見たかった」との感想が多い。

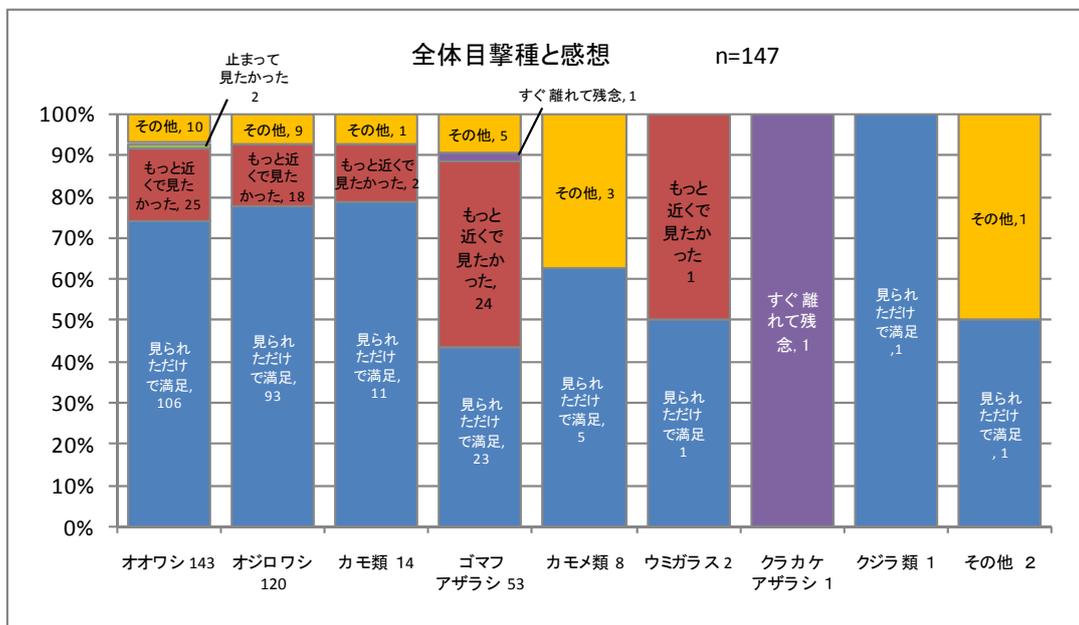


図 3-3-2-2)-1 種を目撃したことへの感想 (全体)

3) 観光船乗船に対する感想

3)-1 乗船してみた感想

観光船に乗船してみた感想では「大変満足」が全体の66%、「まあ満足している」が29%を占めており、「可もなく不可もなく」や「あまり満足していない」、「満足していない」の比率は小さい。

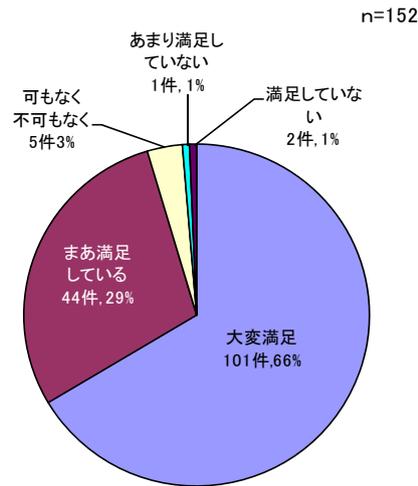


図 3-3-2-3)-1 観光船に乗船してみた感想

3)-2 個別の感想

①目当ての動物を目撃できてよかったかどうか

目当ての動物を目撃できてよかったかどうかについては「とてもそう思う」が70%、「まあそう思う」が22%を占めており、概ね満足している。

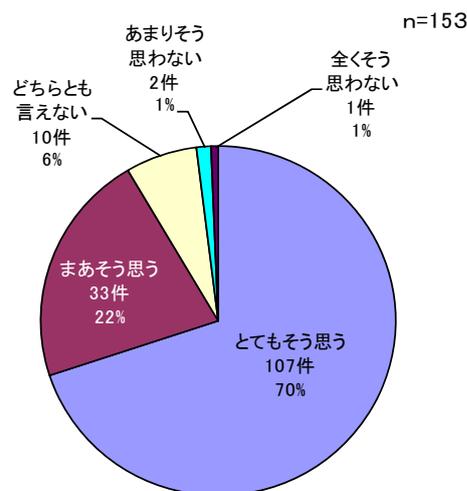


図 3-3-2-3)-2 目当ての動物を目撃できてよかったかどうかの感想

②海からの景色を見られてよかったかどうか

海からの景色を見られてよかったかどうかについても「とてもそう思う」が81%、「まあそう思う」が16%を占めており、概ね満足している。

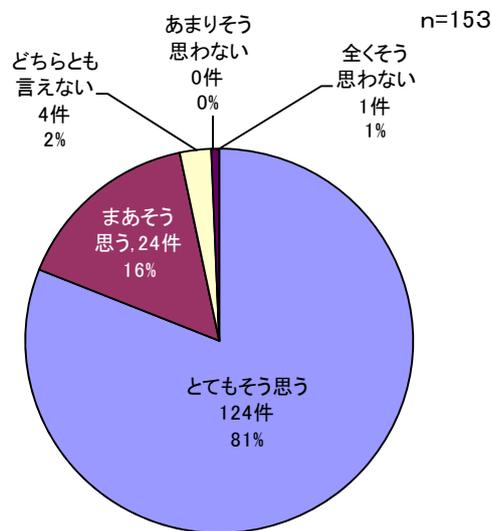


図 3-3-2-3)-3 海からの景色を見られてよかったかどうかの感想

③動物を間近に観察できてよかったかどうか

動物を間近に観察できてよかったかどうかについては「とてもそう思う」が67%、「まあそう思う」が21%を占めており概ね満足している。

ただし、「どちらともいえない」も10%あり、やや満足度が下がっている。

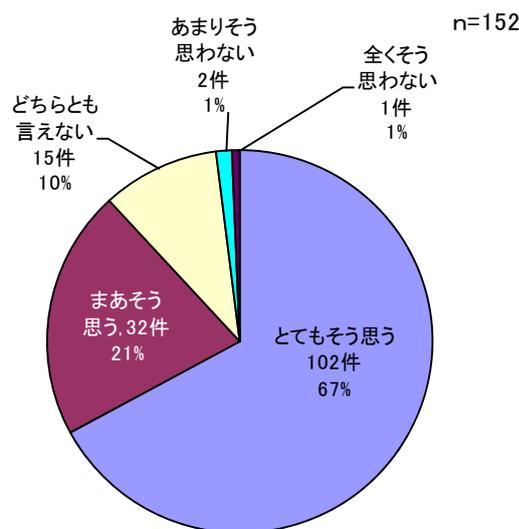


図 3-3-2-3)-4 動物を間近に観察できてよかったかどうかの感想

乗船利用状況調査時における、目撃した動物との距離の違いと間近に観察できてよかったかどうかの感想では、アザラシでは100mでは「とてもそう思う」が55%、10mでは「とてもそう思う」が100%であり、目撃距離が近くなるにつれて満足度があがっている。

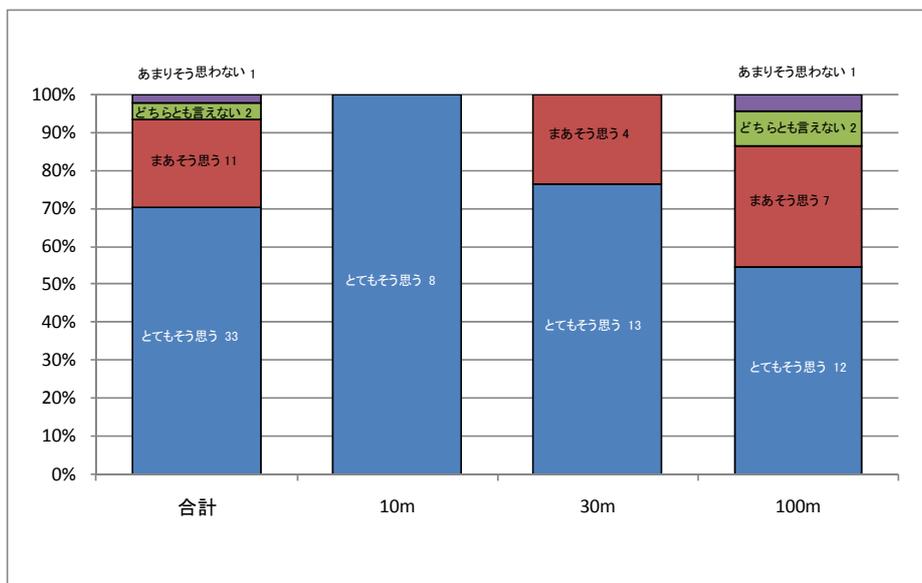


図 3-3-2-3)-5 アザラシの目撃距離の違いによる間近に観察できてよかったかどうかの感想

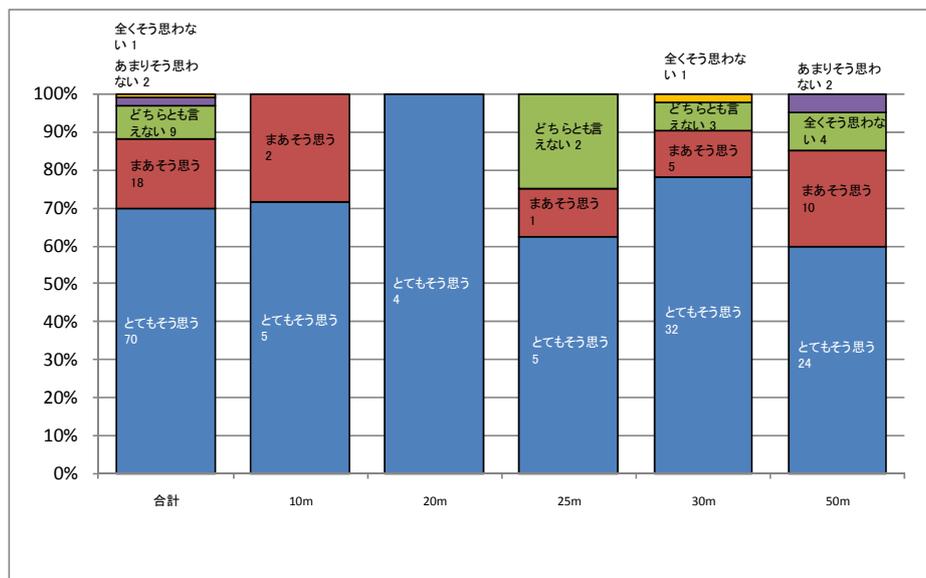


図 3-3-2-3)-6 ワシの目撃距離の違いによる間近に観察できてよかったかどうかの感想

ワシ類との距離では、10mでは「とてもそう思う」が71%、「まあそう思う」が29%を占めており、概ね満足している。20mでは、「とてもそう思う」が100%であり、10mと20mでは全員が間近に観察できたことに満足している。25m以上では、「とてもそう思う」と「まあそう思う」が合わせて75%~90%であり、平均的に満足度は高い。

④ 期待したカットの写真が撮れてよかったかどうか

期待したカットの写真が撮れてよかったかどうかについては「とてもそう思う」が37%、「まあそう思う」が24%にとどまり、「どちらともいえない」が31%、「あまりそう思わない」が4%、「全くそう思わない」が3%で、やや満足度は低い。

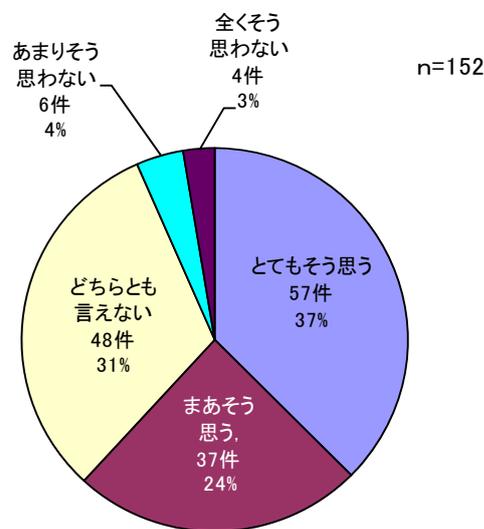


図 3-3-2-3)-7 期待したカットの写真が撮れてよかったかどうかの感想

乗船したコースの違いによる期待したカットの写真が撮れてよかったかどうかについては、写真撮影を主な目的としない60分コースでは、「とてもそう思う」が43%、「まあそう思う」が26%で、「どちらともいえない」が24%であったのに対し、写真撮影を主な目的とする乗客が多い120以上のコースでは、「とてもそう思う」が39%、「まあそう思う」が20%で、60分コースの満足度を下回る結果とはなったが、全体としては大きな差異はなかった。

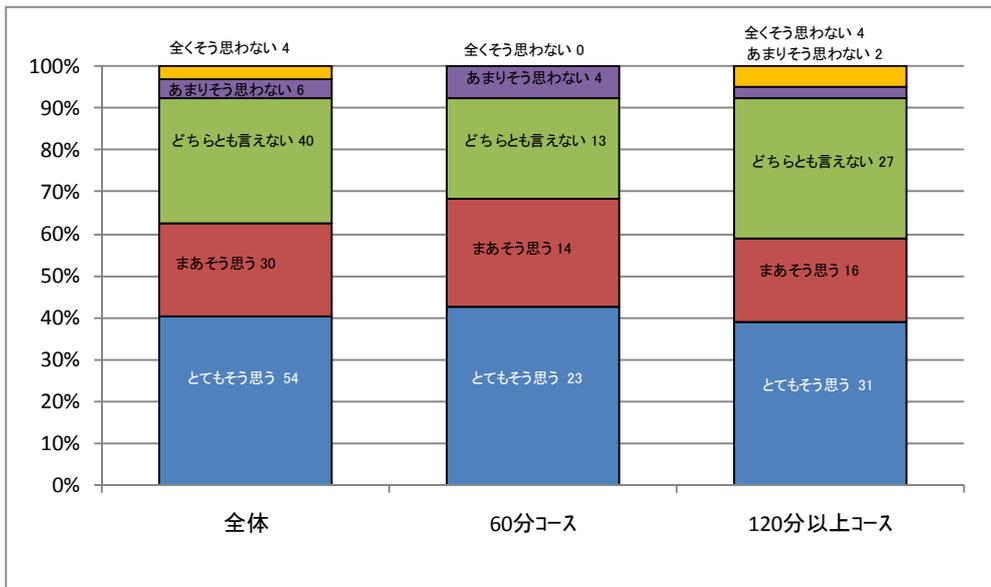


図 3-3-2-3)-8 乗船したコースの違いによる期待したカットの写真が撮れてよかったかどうかの感想

⑤船上での解説がわかりやすかったかどうか

船上での解説がわかりやすかったかどうかについては「とてもそう思う」が 56%、「まあそう思う」が 20%、「どちらともいえない」15%、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」が合計で 10%となっており、総体としては満足している声が多いものの、やや厳しい評価もみられている。

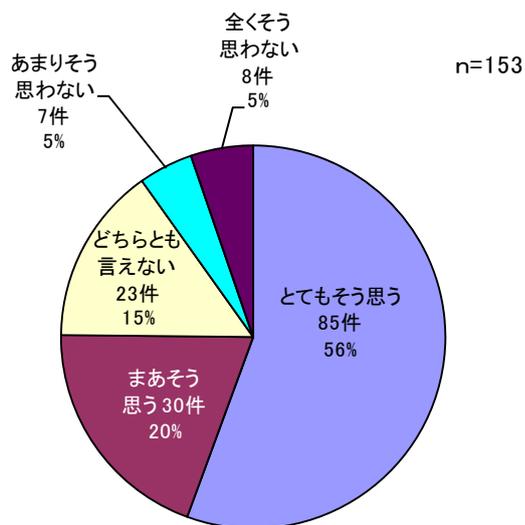


図 3-3-2-3)-9 船上での解説がわかりやすかったかどうかの感想

乗船したコースの違いによる船上での解説がわかりやすかったかどうかについては60分コースで「大変満足している」が81%、「まあ満足している」が15%で、120分以上コースの「大変満足している」が43%、「まあ満足している」が18%に比べ、60分コースに乗船した乗客の方がより満足している。120分以上コースでは、写真撮影目的の乗船客が多いこともあり、船内での解説はほとんど行われていなかった。

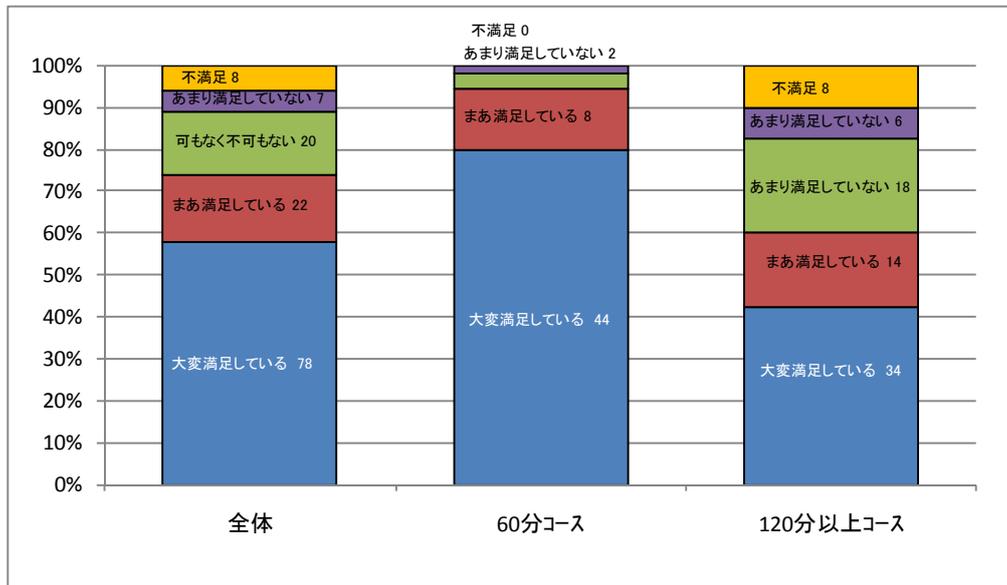


図 3-3-2-3)-10 乗船したコースの違いによる船上での解説がわかりやすかったかどうかの感想

⑥ スタッフの対応が親切だったかどうか

スタッフの対応については「とてもそう思う」が63%、「まあそう思う」が25%、「どちらともいえない」9%であり、概ね満足している結果となっている。

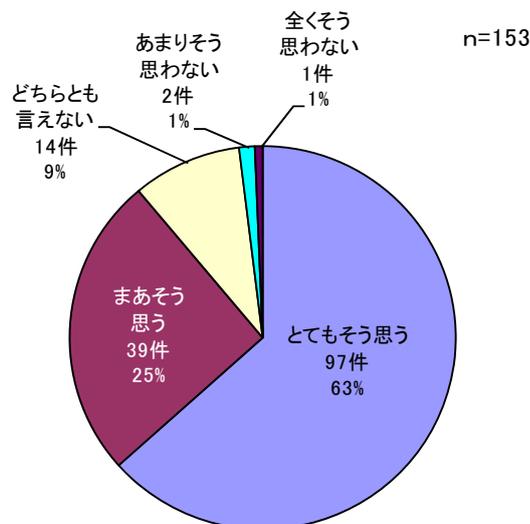


図 3-3-2-3)-11 スタッフの対応が親切だったかどうかの感想

⑦動物の生態がよくわかったかどうか

動物の生態がよくわかったかどうかは「とてもそう思う」35%、「まあそう思う」25%、「どちらともいえない」31%、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」が合計で9%となっており、概ね理解ができたとする感想と、わからないとする感想が混在している。

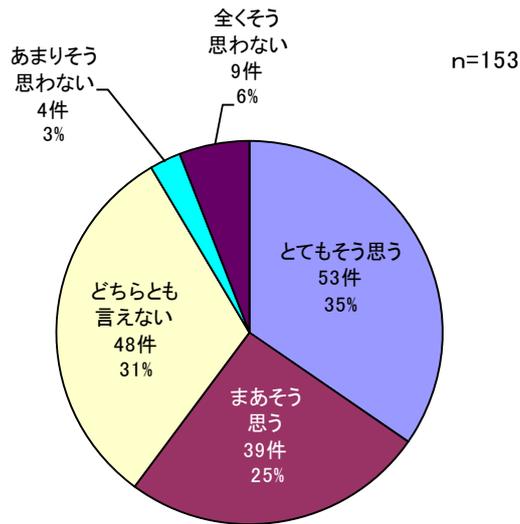


図 3-3-2-3)-12 動物の生態がよくわかったかどうかの感想

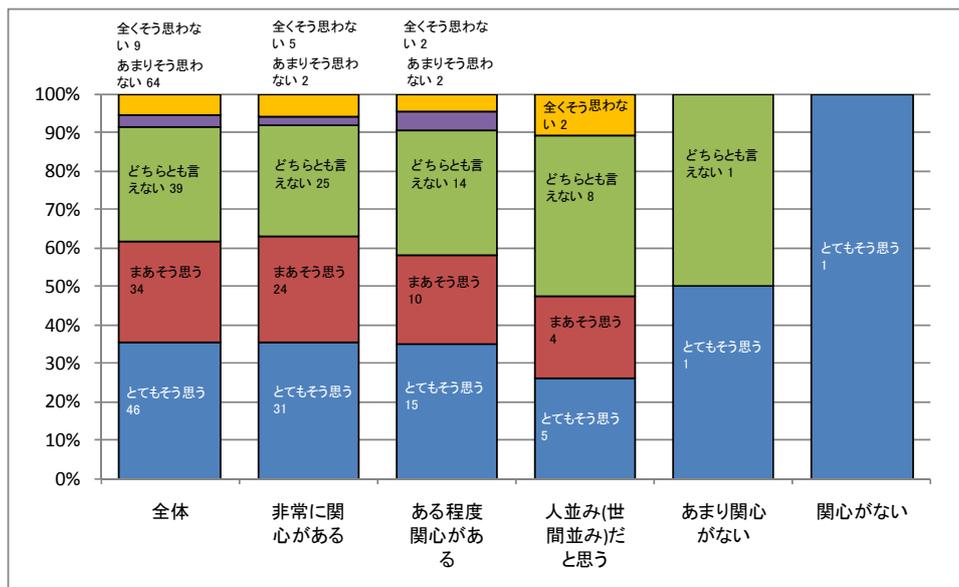


図 3-3-2-3)-13 自然保護への関心度の違いによる動物の生態がよくわかったかどうかの感想

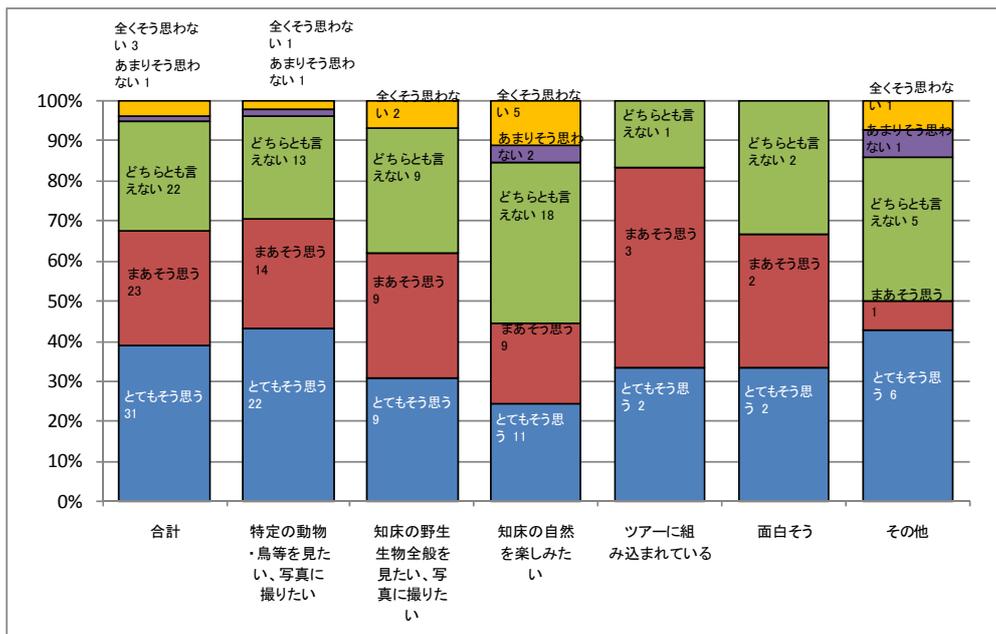


図 3-3-2-3)-14 乗船動機の違いによる動物の生態がよくわかったかどうかの感想

自然保護への関心度の違いによる動物の生態がよくわかったかどうかの感想では、「関心がない」にもかかわらず「とてもそう思う」と回答した1人が100%で満足しており、他は26%～36%と低くほぼ同様の満足度である。

乗船した動機の違いによる動物の生態がよくわかったかどうかの感想は、「ツアーに組み込まれている」で「とてもそう思う」が33%、「まあそう思う」が50%であわせて83%と高い満足度をしめしているが、「知床の自然を楽しみたい」では「とてもそう思う」が24%、「まあそう思う」が20%で、他の動機より満足度が低く厳しい感想を持っていた。

⑧知床の生態系について理解が深まったかどうか

知床の生態系について理解が深まったかは「とてもそう思う」が42%、「まあそう思う」が29%、「どちらともいえない」22%であり、概ね理解が深まったとの感想を抱いている。

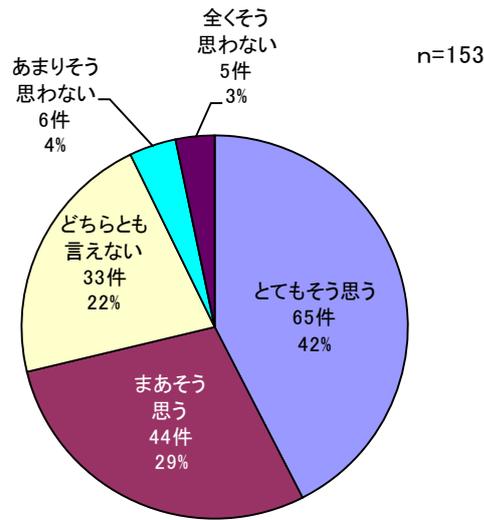


図 3-3-2-3)-15 知床の生態系について理解が深まったかどうかの感想

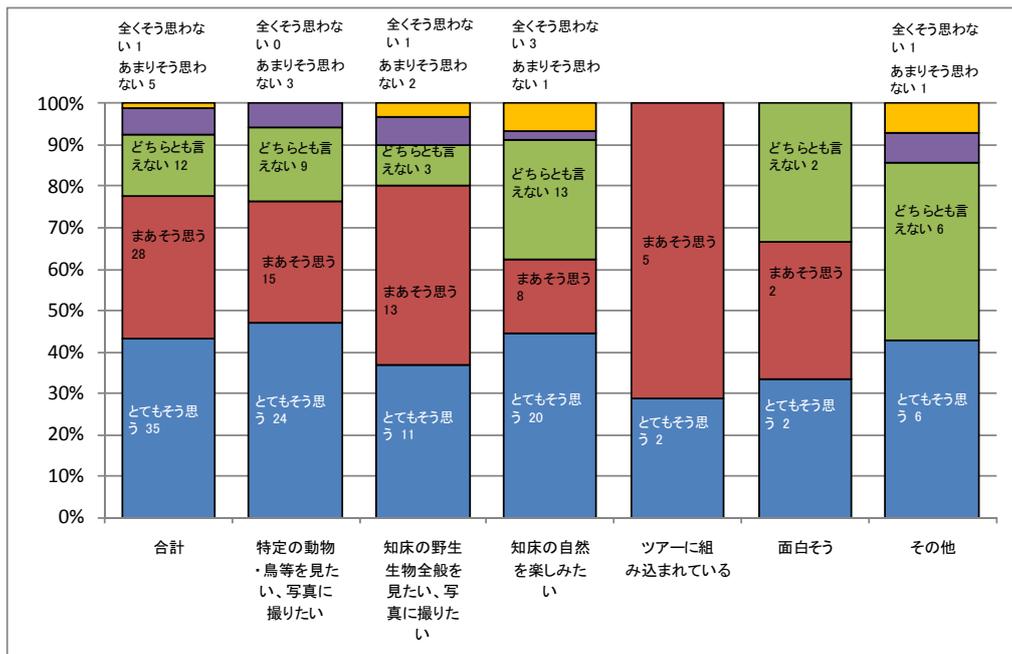


図 3-3-2-3)-16 乗船動機の違いによる知床の生態系について理解が深まったかどうかの感想

乗船動機の違いによる動物の生態がよくわかったかどうかの感想は、「ツアーに組み込まれている」で「とてもそう思う」が29%、「まあそう思う」が71%であわせて100%と高い満足度を示しているが、「知床の自然を楽しみたい」では「とてもそう思う」が44%、「まあそう思う」が18%で、他の動機より満足度が低い評価になっている。

⑨ 乗船前よりも自然環境に興味がわいたかどうか

乗船前よりも自然環境に興味がわいたかどうかでは「とてもそう思う」が48%、「まあそう思う」29%、「どちらともいえない」21%であり、概ね自然環境への興味を促すことができている。

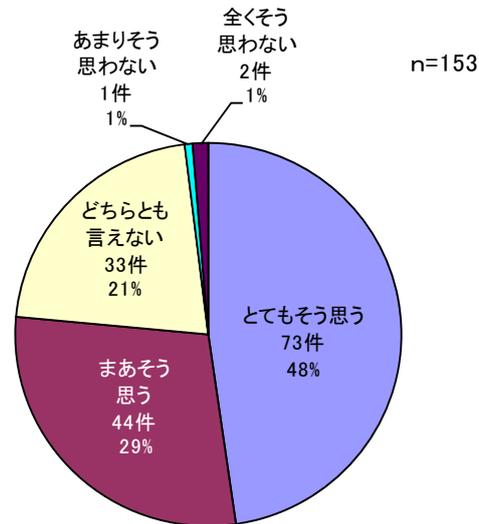


図 3-3-2-3)-17 乗船前よりも自然環境に興味がわいたかどうかの感想

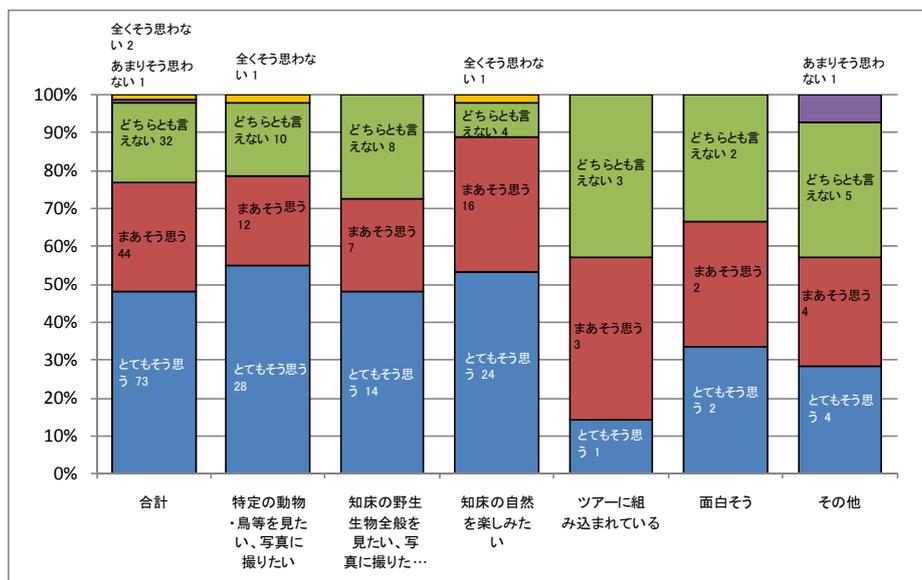


図 3-3-2-3)-18 乗船動機の違いによる乗船前よりも自然環境に興味がわいたかどうかの感想

乗船動機の違いによる乗船前よりも自然環境に興味があったかどうかの感想では、「ツアーに組み込まれている」で「とてもそう思う」が14%、「まあそう思う」が43%で他の動機に比べ、満足度が低い。

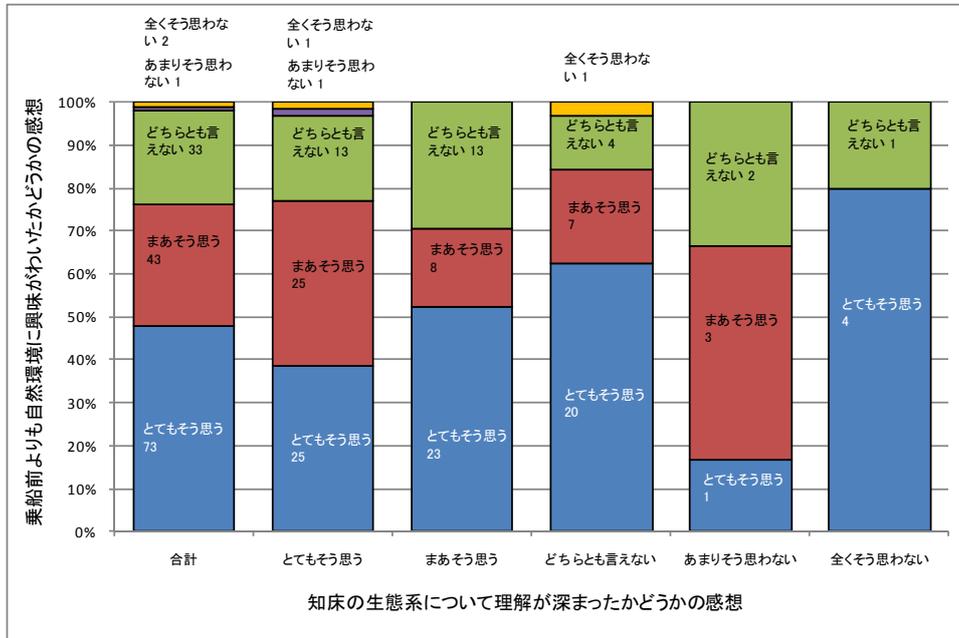


図 3-3-2-3)-19 知床の生態系について理解が深まったかどうかの感想の違いによる乗船前よりも自然環境に興味があったかどうかの感想

知床の生態系について理解が深まったかどうかの感想の違いによる乗船前よりも自然環境に興味があったかどうかの感想では、知床の生態系について理解が深まったとは全く思わないで、「とてもそう思う」が80%と高い満足度を示している。

⑩また乗船したいと思ったかどうか

また乗船したいと思ったかどうかについては「とてもそう思う」が76%、「まあそう思う」が16%と両方で92%を占め、リピーターの来訪を期待させる結果となった。

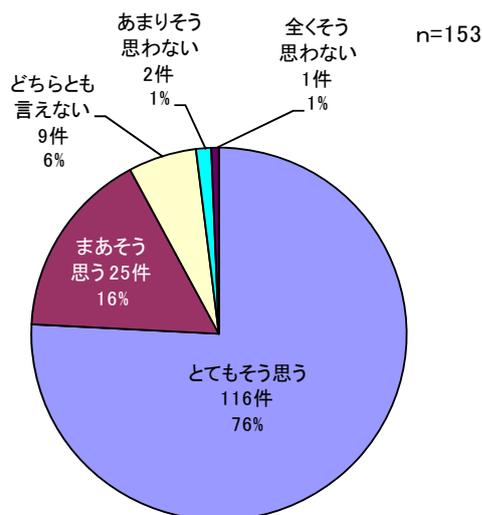


図 3-3-2-3)-20 また乗船したいと思ったかどうかの感想

3)-3 属性の違いによる乗船満足度

①居住地の違いによる満足度

居住地の違いによる満足度では道内、道外客は7割前後が「大変満足している」とし、「まあ満足している」を合わせるとほぼ100%に近い満足度を示している。

一方、地元の乗船者は「大変満足している」が5割未満となり、「まあ満足している」、「可もなく不可もない」の割合が高まるやや厳しい評価となっている。

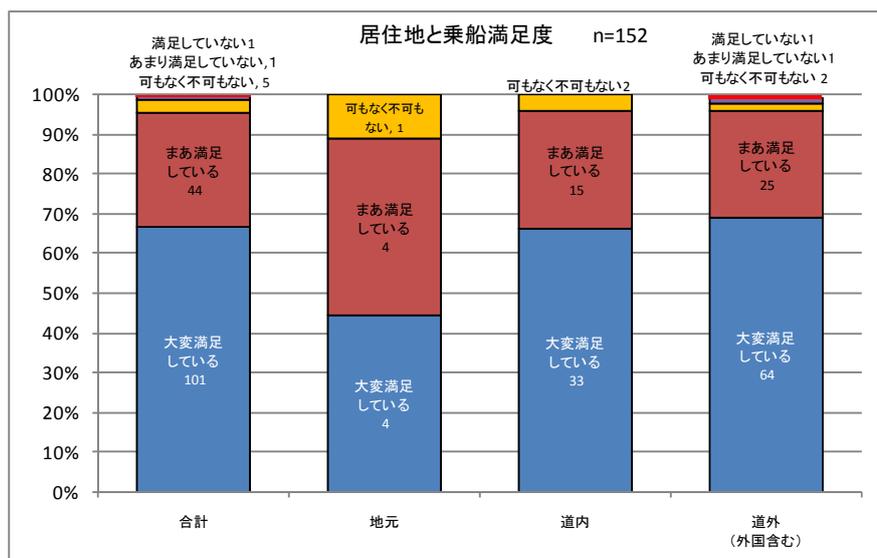


図 3-3-2-3)-21 居住地の違いによる満足度

⑫年齢の違いによる満足度

年齢の違いでは 20～30 代の満足度がやや低く、年齢が上がるにつれて満足度が高まっている。また、10代については高い満足度を示している。

全体としては7割が「大変満足している」とし、「まあ満足している」を合わせると95%となり高い満足度を示している。

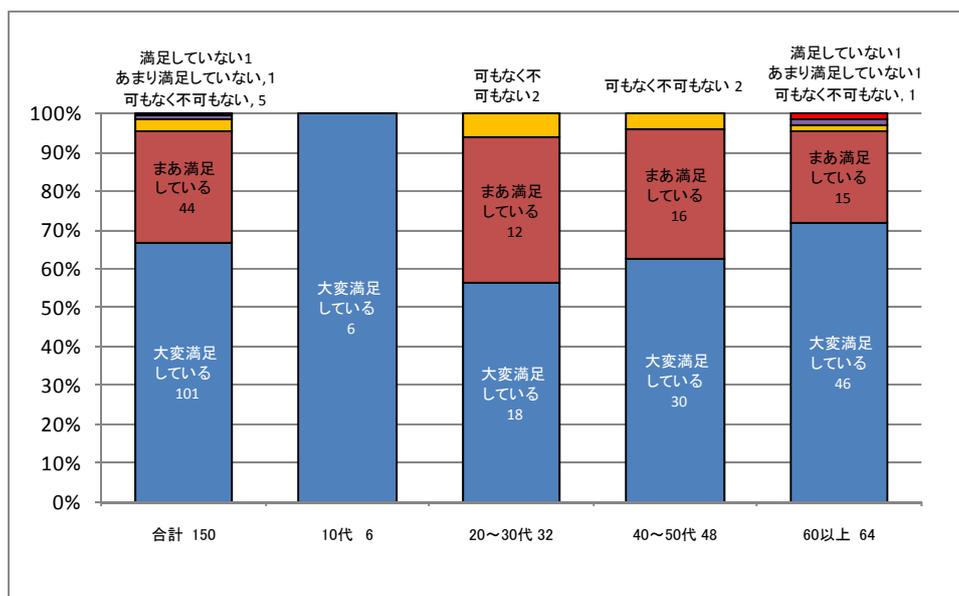


図 3-3-2-3)-22 年齢の違いによる満足度

⑬男女の違いによる満足度

男女による満足度に違いは見られず、どちらも7割が大変満足しているとの回答である。

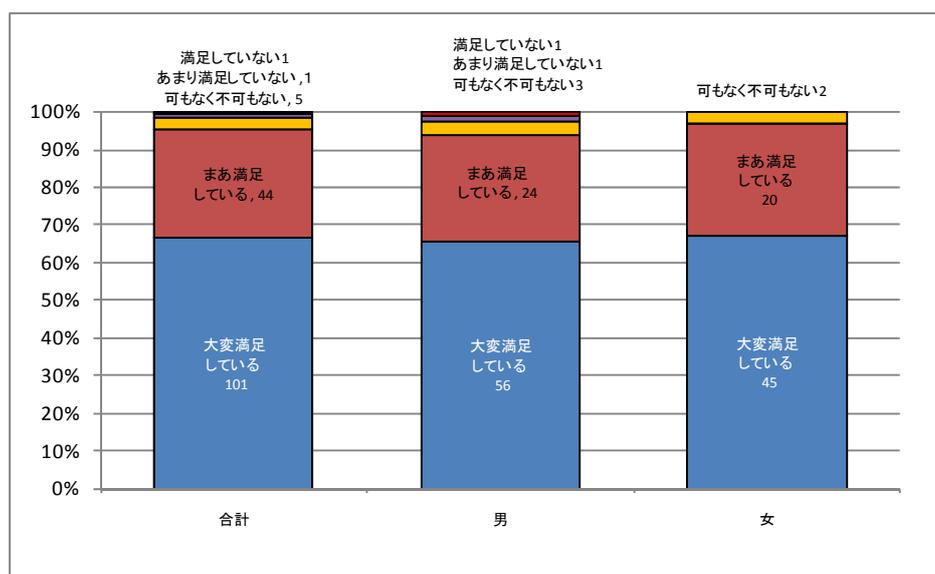


図 3-3-2-3)-23 男女の違いによる満足度

⑭旅行形態の違いによる満足度

旅行形態の違いでは団体旅行の方が個人旅行に比べて「大変満足している」の比率がやや低く、「まあ満足している」を合わせると両者に大きな違いはないものの、若干団体旅行の方が満足度が低い傾向がうかがえる。

なお、地元の乗船者は「大変満足している」の比率が5割を切っており、厳しい見方をしている。

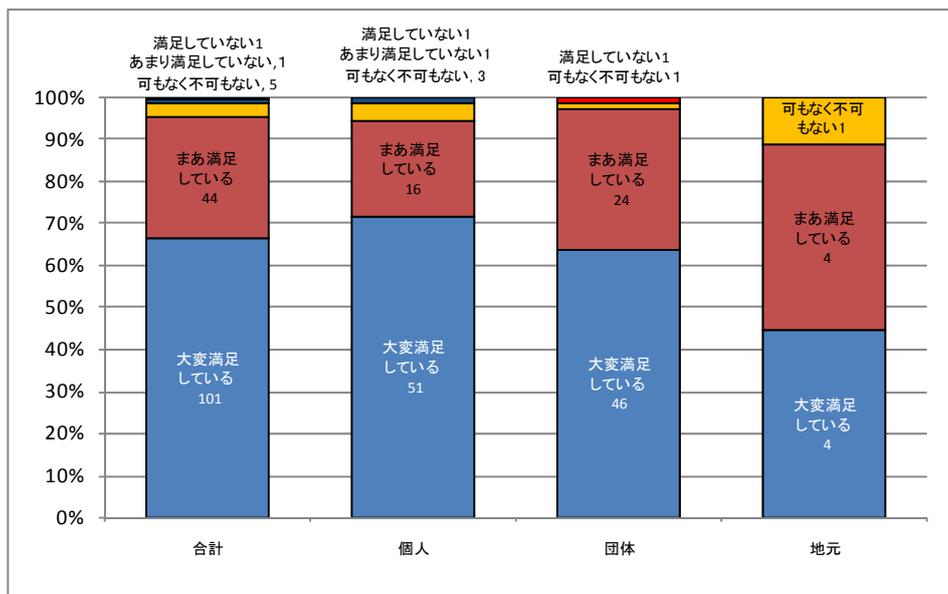


図 3-3-2-3)-24 旅行形態の違いによる満足度

⑮乗船動機の違いによる満足度

乗船動機の違いでは、特定の動物を見たい、ツアーに組み込まれている、面白そうでは高い満足度を示しているが、知床の野生生物全般を見たい、知床の自然を楽しみたいではやや満足度が低くなっている。

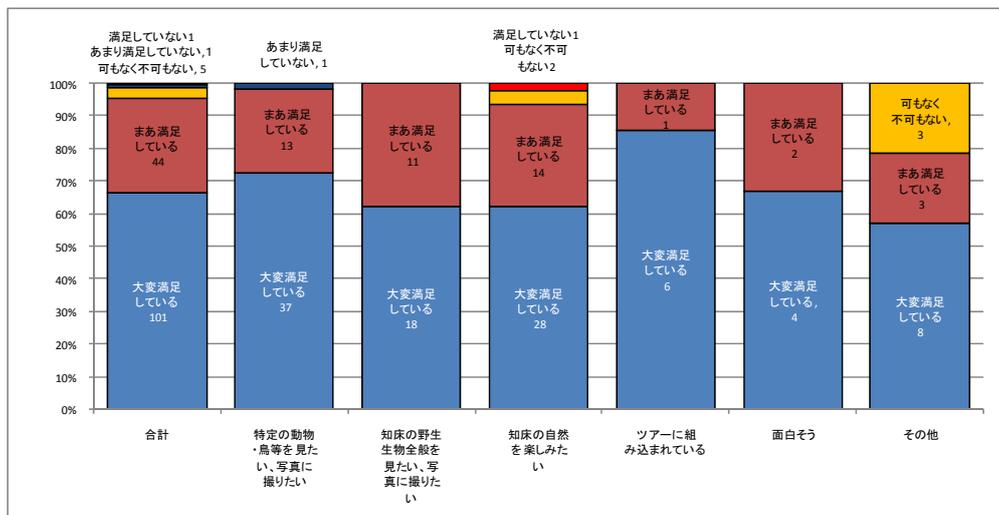


図 3-3-2-3)-25 乗船動機の違いによる満足度

⑩自然保護への関心度の違いによる満足度

自然保護への関心度による違いでは「ある程度関心がある」の回答でやや満足度が低くなっているが、総体としては概ね良好な満足度となっている。

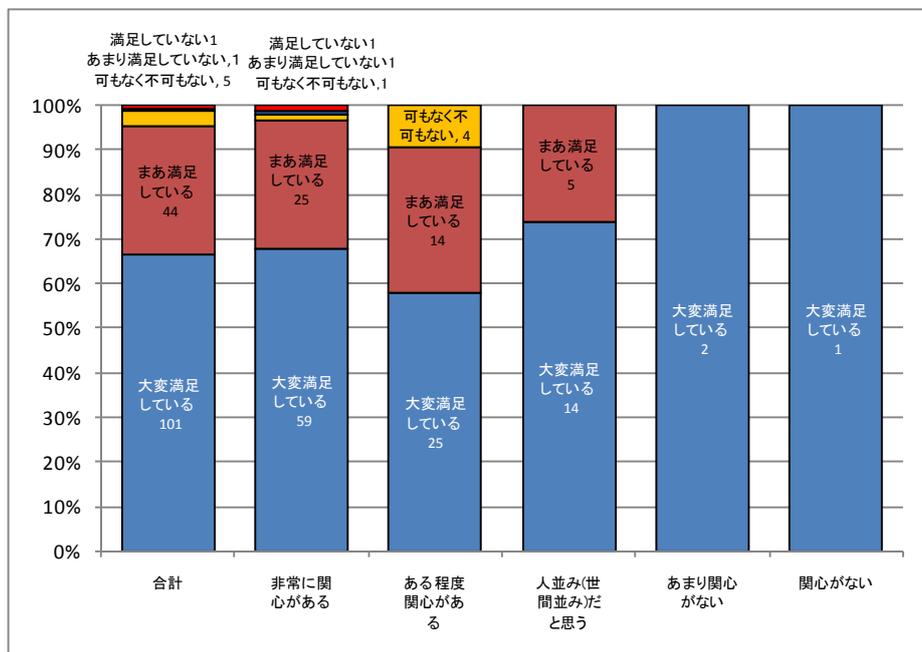


図 3-3-2-3)-26 自然保護への関心度の違いによる満足度

⑪乗船経験の違いによる満足度

乗船経験の違いではそれほど満足度に大きな違いはないが、経験があるほうがやや満足度が高くなっている。

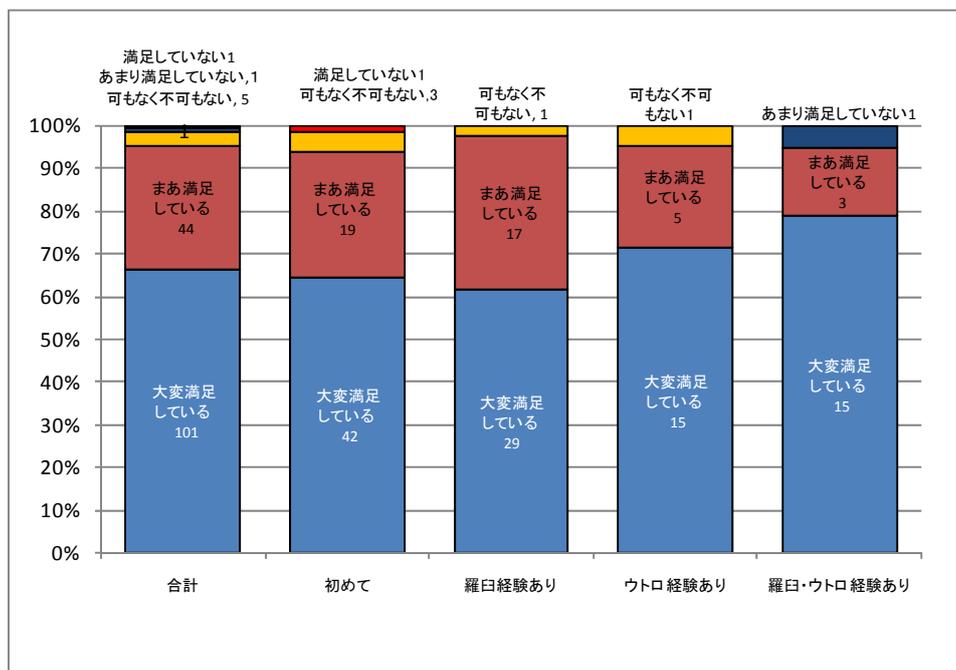


図 3-3-2-3)-27 乗船経験の違いによる満足度

⑱乗船予定回数の違いによる満足度

乗船予定回数の違いでは満足度に大きな違いはなく、概ね7割が「大変満足している」としている。

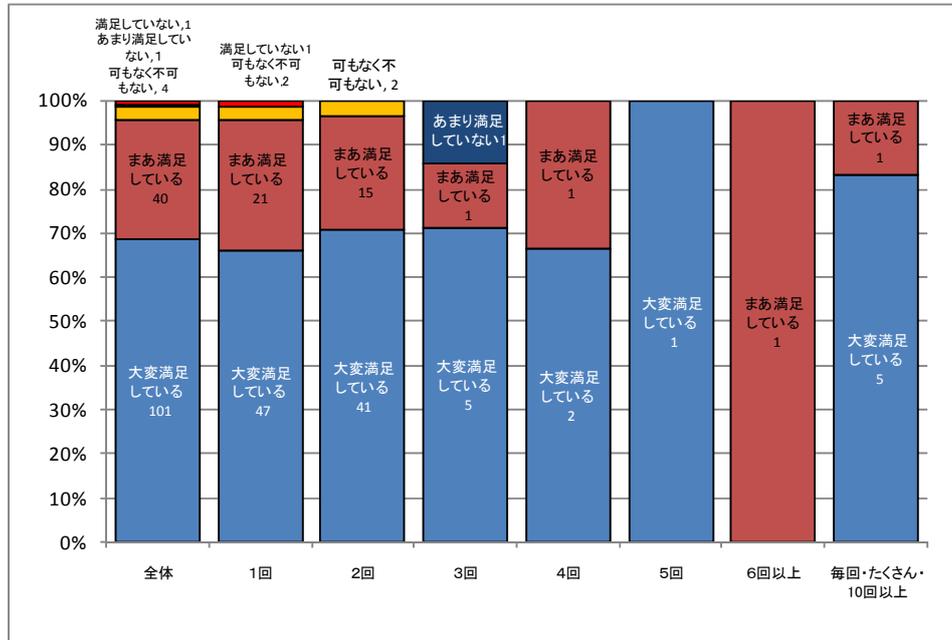


図 3-3-2-3)-28 乗船予定回数の違いによる満足度

⑱旅行日程の違いによる満足度

乗旅行日程の違いでは日程の多くを占める2泊3日や1泊2日と4泊5日で比較的高い満足度となっているが、3泊4日や5泊以上ではやや満足度が低くなっている。

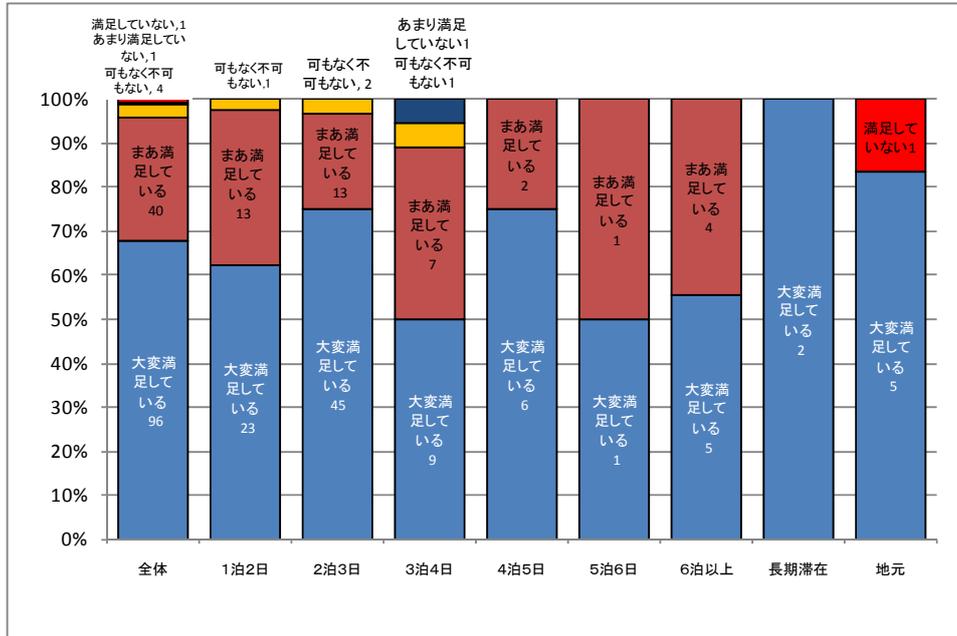


図 3-3-2-3)-29 旅行日程の違いによる満足度

⑳運航時間の違いによる満足度

運行時間の違いでは3時間～3.5時間で満足度がやや低く、3時間未満が満足度を得る目安と考えられる。

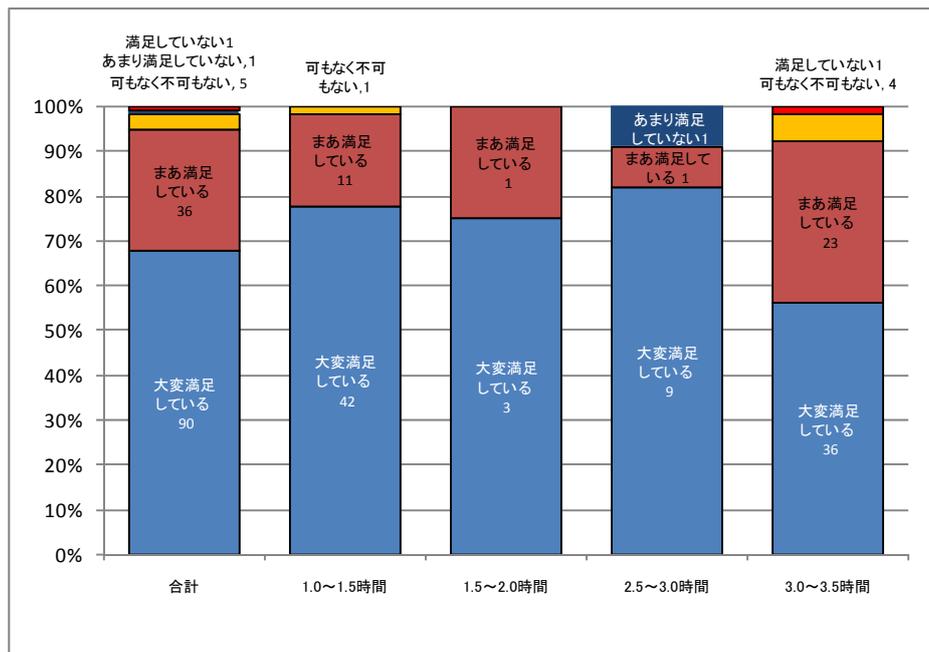


図 3-3-2-3)-30 運行時間の違いによる満足度

4) 自由回答

① 満足と評価される自由回答

満足とする自由回答では知床の動物を目撃できたことや流氷を見ることができたことがあげられている。また、スタッフの対応についても好印象を持っている回答が見られた。

表 3-3-2-4)-1 満足の自由回答

アザラシとか見つけた時の1時の角度とか、とてもわかりやすかったです。また乗りたいです。
オオワシ、オジロワシ、流氷とか良かったが、前ばかりではなく後ろを振りかえり見たら羅臼岳が真っ白く見えこれも写真に撮りました。
オオワシ、オジロワシといった貴重な野生動物を生で見れて大変満足。
オオワシ、流氷、日の出も見れて大変満足した。
オオワシを心ゆくまで見れて満足です。
この地域にオオワシ、オジロワシが集まっていること。世界に誇れることではあるが、自分にも目の前にあるものから自然環境に関してできることからやっていきたい。
ゴマフアザラシが見れて良かった。
こんなに近くでオオワシが見れるなんて思いませんでした。数の多さにも驚きました。知床連山に国後島とロケーションも素晴らしく、自然の豊かさ感動しました。
スタッフの解説が良かったので、わかりやすくて良。
すべて満足。クルースタッフが大変良かった。
たくさんの人に知床を見てほしいです。
とても安全にオジロワシやオオワシに近づけて良かった。船長さんがとても良心的に操船してくれて良かった。
ワシが見れて良かった。
ワシ見れて良かった。
沖から陸地を見ることができ満足しました。もう少し国後近くまで行ってみたいと思いました。
何度もお世話になっているので安心して乗船していました。お客が少なかったのも、ゆっくり撮影ができました。
海からの景色・動物を観察 good!写真撮れなかったのも又、チャレンジしたいと思います。
観光客に少しでより多く満足させてあげようと思っている船頭さん始めスタッフの方々の思いのようなものがとても感じられました。私は残念に思うことはナシ。
間近で鳥の写真を撮れて良かった。
期待通りの写真が撮れ良かった。
近くでワシを見、食べる姿も見れ大変満足です。
自然動物への造形がうすく、特に期待もせず乗船したが、とても興味深かった。また自然動物クルーズ等にも参加し、色々な角度で自然を満喫したい。
自然動物を見れたこと。
初めての乗船だったが感激した。また乗船したい。
初めての流氷が見られ満足。もっとすごいのがあったかもしれないが、この位でも満足しています。
初めて流氷を間近に見れて感動でした。アザラシ等も見たいです。
少ない時間で流氷が見られた事。
乗船するのは今回が初めてでしたが、流氷がここまですごいとは思いませんでした。
乗船時間が長いこと。
船が他の観光船と協力しあいながら流氷を割って海に出て行くところ。
船上での解説がとてもわかり易く良かった。ただ見るだけでは理解が深まらない。
船長が流氷の動きを良く教えてくれて良かった。
船長さんやスタッフの方が声をかけてくれて、色々説明してくれたので、オオワシやオジロワシの凄さと、羅臼のことをたくさん知ることができた。
船長の説明も良く運転もすばらしくまたきたいと思います。
船内の説明が詳しく、わかりやすかった。流氷が間近で見られて良かった。
総じて良かった。問題点特に無し。
沢山のオオワシ、オジロワシを見ることができ大変感動しました。私はもちろん道内に住んでいる人たちの多くが近くで見れることを知らないでいると思います。もっとPRした方が良いのではないのでしょうか。

知床の現状など詳しくわかりやすく教えていただいたので、とても参考になりました。遠方から来たかいがありました。本当に満足です！！流氷とワシなどセットで写真におさめることができ感動しました。
朝日が国後から昇るのが見れて良かった。
長い時間楽しめて良かった。
鳥が多く動きが大変良かった。
動物が見られて満足でした。
同乗したカメラマン達の動物や景色等の説明が非常に興味深し、話を聞くのが楽しかったです。アナウンス（マイクでの）説明があるともっと楽しいと思いましたが、スタッフの対応は良かったと思います。（方言がわかりにくかった）
日の出は見れなかったけど近くでオオワシ、オジロワシ、アザラシが見れて良かったです。また知床の自然の豊かさを感じました。
迫力ある流氷がすばらしかった。
氷が悪い状態で出航していただいて大変ありがたい。
氷を割りながら行く姿が他では体験できない。オオワシが見れたこと。
満足しています。
目的が達成できて良かった。
野鳥や流氷を間近で見られるのはとても良かったです。
流氷、鳥など見られて良かった。
流氷がたくさんあって感激した。ワシがすぐ近くまで来て魚を食べているところなど見られて良かった。動物園で見るより近い、エサの魚を上手にさばっていて驚いた。アザラシもすぐ近くで見られて本当にかわいかった。スタッフの人が一生懸命探して下さり感謝しました。
流氷が見られたので良かったです。
流氷が見られて良かった。アナウンスの説明がとても良かった。また来たいです。
流氷が見られて最高だった。
流氷が見れて満足。その上にワシやアザラシが見れて大変満足した。

② 残念とする自由回答

残念とする自由回答では動物に餌を与えることへの批判や、解説の少なさがあげられている。

表 3-3-2-4)-2 残念の自由回答

アザラシが見たかった。
アザラシが見れなかったことが残念。
アザラシをもっと近くで見たかった。
ありのままの自然を見たかった。エサやりは必要なのか。
えさに反応が悪かった。動きが少なかった。
エサの食べ方が悪かったこと。時期を逸したこと。
エサをまいたのは残念。自然な姿が良かった。
エンジンを止めてもらったら、もっと写真が撮れた。
オジロワシがまだ見れていない。
カメラの調子が悪かった。
カメラマン対象なのか、アナウンスや説明がなく残念だった。
ゴマフアザラシを是非見たかったが一頭も見られず残念だった。
餌付けは必要ない。
寒いです。
寒くなく揺れも少なく楽しい1時間でした。湾内に油が浮いているのが目につきました。船からエサを配っていた人がいて（客 or スタッフ?）エサを配り終わって入っていた袋（ビニール）を誤って海に落としてしまった。あれを拾わないとエサと間違ってしまうかも…。心配です。
客のタバコ吸殻海への投げ捨ては注意はした。今回はカメラマン相手のせいかつア客相手の時より解説が少ないと思った。
今度は早朝船に乗船することが出来たらと少し残念な気持ち。
思っていたより流氷が少なかったので、オオワシやオジロワシが少なかった。
日の出があまり見えなくて残念。いくつもの船が協力して氷を割って沖に出て行ったり、船同士が乗船客の乗り降りの際も助けあっていて微笑ましかった。
日の出が綺麗だった。投げたエサにカラスやカモメが群がっていたのが残念。
氷の中を船が進むのは大変なのだという事が良くわかりました。出発前に船の中での行動の注意や救命具等の説明がまったくなく船を運転する方は日常的で面倒かもしれませんが、初めての者にとっては、あの揺れ等、初体験なので心配でした。何度も乗っている方もいるかもしれませんが。
野生動物にエサを与え写真を撮らせている光景は自然遺産としての価値が失われると思います。
陽が影って残念。
流氷があり過ぎて遠く（沖）に行くことができず残念でした。天気も良くなく朝日が見られなかった。
流氷がもっと見たい。
流氷が少なくて残念でした。
流氷を見に来たが、野生動物がこんなに近くで見れると思わなかったのが、カメラは一眼レフを持ってくれば良かった。カンタンカメラでは遠くは写らなかった。
沖の流氷にオオワシ、オジロワシがいたが撒き餌にあまり興味を示さず近づいてこなかった。逆に言えば餌には困っておらず、自ら餌を採っているということかもしれない。それはそれで良いことだと思う。

③満足であり残念とする自由回答

満足であり残念とする自由回答では動物や自然に触れられたことへの満足の一方で、マナーの悪さや解説の少なさがあげられている。

表 3-3-2-4)-3 満足であり残念の自由回答

オオワシをもう少し近くで見えたかったです。ただ動物園以外で見れたことにとっても満足しています。
もう少し外洋まで出たかった。たくさん鳥を見て良かった。
以前、紋別へ流氷を見に行ってみられなかったのは是非見なかった。(4月には関西に転勤になるので最後のチャンスと思っていた) のが見られたのと、ワシも近くで見られたので、とても満足している。アザラシが見られなかったのが残念だが、以前に尾岱沼で見られたので仕方ない。
間近で見ることができて良かった。特にオオワシ、オジロワシ。ウトロ側では見ることができなかつたため。ほとんど説明がなかったため、最初は何が何だかわからなかった。
近くでゆっくりと見れる点では満足だが、餌付けによって近くにおびき寄せているのは残念だった。
好天に恵まれ、流氷もきれいでワシの数も多く素晴らしい景色だった。アザラシに会えなかったのは残念。
知床連山が見えなかった。それ以外は満足です。
天候や流氷に恵まれ、多くの野生動物をたくさん観察でき大変満足している。乗船客が多くスタッフとしてはやりにくかったかもしれないが、初心者向けの解説をしてもらえると有難かった。乗船客の中にタバコのマナーが悪く吸殻を海に捨てたものがあった。(1名)
日の出を見られたことに満足。海がうねっていた事が残念。
本来希望していた時間帯ではなかったのですが、前日の電話でスタッフの方にすすめられて乗船しました。朝早くではありましたが、頑張って起きて本当に良かったです。スタッフの方に感謝しています。(見える動物の生態説明が聞けたら良かった)
流氷が見られてとても良かったです。ゴマフアザラシをもう少し近くではっきり見たかったです。
流氷も日の出も見れて、野生動物も見れて満足！でも、動物や景観の解説がほとんどなかった。すごく残念。
流氷帯のうねりの中に入れたのが面白かった。知床岬が霞んで見えたこと。

5) その他意見

アンケートの末尾の設問、知床観光や観光船乗船に関するその他の意見としてあげられた回答を、①今後の提案や期待すること等の要望意見、②感動等を含む意見、に分けて整理した。

① 要望等を含む意見

乗船体験や知床の観光に好印象を持った上で、今後さらに期待する内容についての回答が見られた。

表 3-3-2-5)-1 その他意見 (期待・要望・提案)

冬の羅臼はとても素晴らしいと思う。しかし公共機関、ホテル等のインフラ不足・宣伝不足がとても残念。自然を大事にしながらも、更なる発展へ向けて頑張っていただきたい。東京への事務局の設置等の検討はどうか。
観光整備をしてレベルの高い観光地にしてほしい。
温泉を利用した施設を建設してほしい。
環境の保護をこのまましてもらいたい。旅行者にとって不便であっても。
交通機関が(公共)少ないのでまわるのに不便だ。
車で来たが道路標識が少なくて羅臼まで来るのが不安だった。
冬でもトイレの設備がもっとほしい。
交通の便がもう少し良いと来やすいのに…。
羅臼で色々な動物が見られる事。外国人も多い。ただウトロに観光客が多くなると少し寂しい。
野生の動物にたくさん会えて楽しかったです。他の季節にも来てみたいです。流氷など、環境が守られていてほしいです。
知床の素晴らしさを改めて実感した。観光する側として経済的な負担が少し増えても、この自然は大切に守っていくべきだと思う。
普通の観光船と違い船を止めてゆっくり見られるのはすごく良いと思いました。ワシの飛ぶ時の羽音や鳴き声も聞こえて感動しました。何回も乗ってみたいと思いますが、乗船料金がもう少し安いと嬉しいと思います。
もっと、羅臼観光船のPRする必要があります。
あまり観光化せず、ありのままの自然を残してほしいと思います。知床=便利(コンビニなどある)に思いたくないです。自然を満喫したいと思っていくものです。
羅臼:もっと業者間が連携し、羅臼の観光業全体でお客を迎えるようなことを期待しています。団体は受け入れられないことも大切。斜里(ウトロ):あまりにも観光客を甘く見ている。個人客が離れていることに気がつくべきだと思います。
流氷を見て(鳥や動物も含めて)自然を満喫しました。九州より来ましたので、自然の異なることを痛感しました。もっとPRして欲しいと思います。
これ以上の俗化は望まない。
観光の為に環境を壊さないでほしい。動物シカ等他のテリトリーに人間は入ってほしくない。又、人間のテリトリーに入る動物はエサなど人間が環境を壊しているからだと思います。
自然と観光開発を両立させるのは難しいですね。もっと見たいという要求は自然破壊につながり…。人間が一番自然の中で悪い存在かも。
観光の為に人工的な細工をあまりせずにできるだけそのままの自然を残してほしい。イベント等にあまり興味はなく素のままの自然こそ見て体験したい。
野生動物がみられるような環境を残して欲しい。旅行者もそれについてなにかしかの負担を覚悟するべきではないか
鳥類だけではなく、熊やキツネを見るにつけ、いつもおなかをすかせているように見えます。人間は、川や海に網をはって魚をとるければ、熊の分も考えてほしいと思います。魚のたまごだけの為に魚を根こそぎとるなんて、なんて人間は自分勝手なんだろうと思います。人間に比べて鳥や他の動物達はみんなお腹をすかせています。もう少し共存共栄ができないか工夫次第でできるのではないかと思います。(知床に限らず世界中で)
まだ2日目これから潜ったりと色々楽しみです。

② 感動等を含む意見

自然環境の観察から得た感動や羅臼に対する好印象等について記入が見られた。また訪
れたい等の意見も多い。

表 3-3-2-5)-2 その他意見（感動等）

日本とは思えない別世界な感じがする。
知床にいる動物種の多さに感動した
雄大な自然を間近に感じることができて良かった。
流氷の多さに驚きました。
エバーグリーンのおじさんが面白い人だなと思いました。
日本の他の場所と全然違う。
流氷が多すぎてあまり沖まで出られなくて残念だったが20年ぶりと言われる流氷の多さに感動した。
景色であれ生き物であれ人間はあまりにもその領域に入りすぎている感じがしました。自分の欲望をセーブできたら良いですね・・・。人間には無理でした。珍しい生き物(鳥)見られたし、氷も見られたし、ホテルも大変快適で良かったし、アレコレ勝手な事を書きましたが、気持ちのよい撮影旅行でした。夏の羅臼にも来たいものです。
他の動物や四季を通じて、またぜひ乗船したいと思います。
シマフクロウが撮影できて良かった。
シマフクロウがすばらしい。
もう少し時間がほしい。今度は個人的に
また来たい。住みたい。嫁に来たい。
自然を感じることができ大変満足です。
また他のシーズンに来てみたいと思った。クジラを見てみたい。
来年も来たいです。
船長さんと船員さんが親切で楽しかったです。
明日のオーロラ乗船も楽しみ。
どこかでやっているイルカを餌付けして船と並走させるような見せ物的な観察プログラムではなく、野生本来のワシ類やアザラシを見せていることがとても良かった。
とても自然が豊かで良かった。
地元の良さがとてもわかった。
ありのままの自然の姿が続いてくれますように。
いつまでも世界自然遺産を大切に。流氷とオオワシがこれほど見れる地域は世界でも珍しい。
5時起きは辛いけど朝日は綺麗だった。
冬の知床の方が素晴らしいと思います。(羅臼)
たくさんの方が知床の自然に触れ合えて良いと思った。(動物)
非常に楽しかったです。又来ます。
すばらしい。
冬はもちろん他の季節にも来たいです。
景色よし、食い物よし、人もよし、これからも観光他として期待できる。知床半島の奥まで入れるようになったら尚良い。また来たいと思います。
うねる流氷圧巻でした。
日本にいないみたいだった。自然への関心が深まりました。
春から夏にもう一度来たい。
知床の自然にたくさん出会えて良かった。
ウトロに比べて観光客の少ない羅臼だが、とても魅力を感じる場所です。夏はシャチ、クジラ、冬はオオワシ、オジロワシ、トド、アザラシが集まる豊かな海、またぜひ羅臼に来たいです。

自然の良さを実感した。
とても良かった。
もう7~8回知床旅行はしておりますが、いつもウトロ側だったのですが、今回初めて羅臼の流氷クルーズに参加できて満足しております。
今のところ天気が良く、色々な場所が見られて楽しい。夏の知床に言ってみたい。
今度はクジラで来たいです。良いところですね。
羅臼が素敵だってことを、もっと伝えていきたいと思いました。
知床の自然や、オホーツク海の流氷すごく良かったです。この流氷がなくなってしまうのであれば良いと思います。
大きな看板も派手な建物もなく、自然と人間が共存しているように感じられました。
また来たい。
ありがとうございました。
冬の流氷・バードウォッチングツアーは、天候・流氷の位置ワシ等の数に左右されるので、今回は大変幸運だった。また夏も冬も行きたいです。
ウトロ側で写真が撮りにくくなった。
流氷はもっと見れると思いました。
シャチをまだ目撃していないので、5月にチャンスがあればチャレンジしたい。
今度はクジラを見たいと思いました。
野生動物がもう少し見たかった。

3-4 考察

今回の調査結果を、(1) 野生動物の観光利用状況、(2) 観光船利用者の意識、(3) 観光利用における懸念事項、(4) 野生動物のデータの蓄積、(5) 今後必要な情報の5つの点について整理した。

(1) 海域野生動物の観光利用状況

観光船事業者からの情報提供によって、現在利用されている野生動物種に関する出現情報が把握できた。同時に提供された出航状況及び利用者数のデータから、近年の観光船利用状況と野生動物の出現状況の変化を確認した。

また、冬期の観光船は、観光船利用者の a) 写真撮影、b) 流氷や動物・景観の観察、といった目的により、主に2通りのプログラムが設定され運航コースが区分されていた。

専門家からは、現在利用されている野生動物の基礎情報に加え、現在積極的な利用はされていないが、全国的に出現箇所が限られているような希少な鳥類の情報が提供された。

さらに、世界自然遺産登録後に、観光船利用者が増加した要因の一つに、観光船事業者の対外的広報活動の成果があったことが示された。このことは、今後もPR活動や社会的な意識の変化によっては利用者が増えていく（または減少する）可能性が十分にあることを意味している。

(2) 利用者の意識

アンケート結果から、利用者は乗船した感想として、「大変満足」と「まあ満足している」が合計で全体の95%と、概ね満足していたと言える。自由回答でも、流氷や国後島の眺めに感激したという景観への高い評価、またオオワシ・オジロワシ、アザラシなど野生動物の観察・撮影に対する満足度の高さが伺えた。このことは、観光船事業者の提供するプログラムが、利用者の要望と一致していることであると言える。また、積極的に広報してPRすべき等、今後期待する意見もあった。

一方で、利用者が残念に感じた点として、以下の点があげられる。

○船内アナウンスについて

写真撮影コースでは野生動物や自然への解説などがなかった。

○給餌について

給餌の必要性について疑問視、ありのままの自然を期待していたが給餌をしていて残念だった等、給餌に対する否定的な意見が8件あった。

(3) 観光利用における懸念事項

専門家から配慮が必要な対象として、ミズナギドリ類、ワシ類、クジラ類、アザラシ類について具体的な措置が出された。

○ハシボソミズナギドリ

羅臼に飛来してくる時期は、ハシボソミズナギドリが換羽の時期にあたり、飛翔・索餌が上手くできない。羅臼には、海の豊富な餌を求めてやってくるため、影響を与えないように観察する必要がある。

○ワシ類

観光船により、写真撮影目的の運航コースでは、オオワシ、オジロワシを氷上に飛来させるために、給餌が行われている。給餌によりワシ類をある箇所に集約することで、次のことが懸念される。

- ①鳥インフルエンザ等の感染症のまん延
- ②給餌される海域へ陸域の崖や林から飛来する際に発生している交通事故の増加の可能性
- ③給餌自体に環境教育上の問題

○その他鳥類

ミナミオナガミズナギドリ、アホウドリ、エトピリカ、ウトウ、フルマカモメの群れなどの珍しい鳥は、広報次第で利用資源として期待できる。観察時にはそれらに影響を与えないための配慮が必要である。

○アザラシ類

ゴマフアザラシとクラカケアザラシは流氷上で出産育児を行う。3月中旬～4月中旬にかけて知床周辺で流氷がある時には観光船から観察ができる。生まれたばかりの子供は遊泳能力が低いため、驚かせて流氷から落ちたりすると、親とはぐれたり、溺死する危険がある。このため、観察の際は、影響を与えない一定の距離を保つ必要がある。

○観察対象全体

観察対象である野生動物の自然な行動を妨げないような配慮が必要であるが、現状として、種によっては必ずしも配慮されていない場合もある。

(4) 海域野生動物のデータの蓄積

データの蓄積に関する現状の課題等について、専門家から以下の点があげられた。

- ウトロ側は定期航路があるため、海域における定期的な調査が可能である。
しかし羅臼側は、定期航路がないので定期的な調査をする場合は船をチャーターする必要がある、調査主体（個人の場合）の負担が大きく、調査データ取得の継続が難しい。
- 利用資源としての野生動物の情報を蓄積することは必要であり、継続して蓄積し比較していくことが重要である。

(5) 今後必要な情報

今後、利用方法が検討される場合に必要と考えられる情報として、以下が考えられる。

- 知床における海域野生動物の調査データ
海域の野生動物のデータの蓄積は、多くを観光船事業者の自主観察記録に依存している。観光利用の影響を評価・把握する為には、出航数に左右されない定期的なモニタリングが必要である。
- 夏期の羅臼における観光船利用状況
平成 22 年度に、夏期のウトロ海域(別業務)及び冬期の羅臼海域(本業務)における観光船利用状況について調査が行われた。夏期の羅臼海域における観光船利用状況を含めることで、年間を通じた知床海域全域における観光船利用状況の把握ができる。
- 観光船事業者及び地域住民の意識
羅臼海域における観光船事業を、他のエコツアーとともに「知床型エコツアーリズム」の取組みとして位置付けて検討していく時には、観光船事業者と地域住民の期待・懸念事項等、意識の把握と共有が必要である。